1	課程		工業実務専門・商業実務専門 社会福祉専門	5	科目名	キリスト教学Ⅰ
2	学科		建築・ホテル観光・医療秘書・健康スポーツ・こども保育	6	科目番号	1
3	授業時数		32時間	7	期	通期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	森嶋　道	9	授業形態	講義
		資格	牧師		所属	キリスト教会
		実務経験	キリスト教牧師　10年以上			
11	教科書		新共同訳聖書			
12	関連資格・検定等		―			
13	科目の概要		現代社会の諸課題を取り扱いつつ、聖書を通して生命の尊さ、生きる意味、多様なものごとの捉え方を学ぶ。			
14	科目の到達目標		①積極的：キリスト教の基本原理が生きる意味と力を与えるものであることを知る。 ②消極的：キリスト教の教理を教え込み、生徒を入信させるためのものではない。			
15	科目の必須条件		成績は、出席率、態度、学習意欲、平常の提出課題、期末レポート等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　宗教について			
		②	YMCAとキリスト教について			
		③	キリスト教の歴史概観			
		④	イエスキリストの伝説			
		⑤	キリスト教にまつわる物語①			
		⑥	キリスト教にまつわる物語②			
		⑦	教会訪問			
		⑧				
		⑨	愛について			
		⑩	平和について			
		⑪	命について			
		⑫	イースターについて			
		⑬	クリスマスについて			
		⑭	熊本バンドについて			
		⑮	教会訪問			
		⑯				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教養講座Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	2
3	授業時数		60時間	7	期	通年
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	演習
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		無し、プリント等使用			
12	関連資格・検定等					
13	科目の概要		専門科目を学ぶために必要な基礎学力を確かなものとするための学びに取り組みます。 専門的な学びを実践も踏まえながら取り組んでいきます。			
14	科目の到達目標		様々な環境にいる子どもたちに心を込めて接すること、そして。子どもたちの「SPIRIT」「MIND」「BODY」のバランスの取れた成長をサポートできる保育者を目指し、保育者としてのふさわしい自立した社会人になる。			
15	科目の必須条件		様々な経験を通して、全人的成長を目指す本講座は、一人ひとりが自ら考え、行動することを求めます。その為にも積極的に参加してほしいです。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	クラス役割決め・学科交流会話し合い			
		②	学科交流会話し合い、準備、役割分担			
		③・④	学科交流会リハーサル			
		⑤・⑥	学科交流会			
		⑦・⑧	スポーツデイ話し合い			
		⑨・⑩	スポーツデイ			
		⑪～⑮	実習準備			
		⑯・⑰	指導案作成　指導案添削、やり取り、書き直し　完成			
		⑱・⑲	教育実習お礼状作成・完成			
		⑳～㉒	前期振り返り			
		㉓・㉔	クラスキャンプ話し合い			
		㉕・㉖	クラスキャンプ話し合い			
		㉗	クラスキャンプ話し合い			
		㉘	前進際話し合い・準備			
		㉙・㉚	後期振り返り			
18	参考書					

1	課程		社会福祉課程	5	科目名	接遇マナーⅠ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	3
3	授業時数		16時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	藤井　祥子	9	授業形態	講義
		資格	幼稚園教諭1種免許・サービス接遇検定1級 日本話し言葉協会認定講師・秘書検定1級 日本サービスマナー協会認定マナー講師		所属	オフィス コミュニケーション・プラス
		実務経験	専門学校講師15年以上			
11	教科書		『実社会で求められるビジネスマナー　』　井上　洋子　著　　専門教育出版			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		保育の現場における接遇マナーの必要性を認識するとともに、仕事人、社会人として求められる基本的マナーの習得を目標に、講義とロールプレイなどの実技を中心とした実践的な授業を展開する。			
14	科目の到達目標		職場での礼儀作法を身につけたスタッフとして迎えられ、円滑に業務を遂行するために必要な基本的マナーを習得する。 また、実習や就職活動に際し、マナーに関して自信をもって臨める自分づくりを目的とする。			
15	科目の必須条件		成績は、試験、出席率、授業態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。 （出席率、授業態度、学習意欲、提出課題　50点＋定期試験　50点　計100点） 受業態度とは、授業参加の状態（発表、ロールプレイ、グループワーク、板書写し、課題提出等）と授業不参加の状態（携帯電話・スマートフォンの使用、私語、居眠り他）のこと			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	接遇マナーの重要性と心構え・職場のマナーと人間関係・仕事の基本と仕事の進め方・キャリアプラン			
		②	話し方技法　Ⅰ　　話し方とコミュニケーション			
		③	話し方技法　Ⅱ　　社会人のことば遣い			
		④	電話応対技法　Ⅰ　　電話の受け方のマナーと実技			
		⑤	電話応対技法　Ⅱ　　電話のかけ方のマナーと実技			
		⑥	来客応対のマナー・訪問のマナー			
		⑦	ビジネス文書　　社内文書・社外文書			
		⑧	冠婚葬祭のマナー			
		⑨				
		⑩				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	接遇マナーⅡ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	4
3	授業時数		16時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	藤井　祥子	9	授業形態	演習
		資格	幼稚園教諭1種免許・サービス接遇検定1級 日本話し言葉協会認定講師・秘書検定1級 日本サービスマナー協会認定マナー講師		所属	オフィス コミュニケーション・プラス
		実務経験	専門学校講師15年以上			
11	教科書		実社会で求められるビジネスマナー			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		保育の現場における接遇マナーの必要性を認識するとともに、仕事人、社会人として求められる基本的マナーの習得を目標に、講義とロールプレイなどの実技を中心とした実践的な授業を展開する。			
14	科目の到達目標		職場での礼儀作法を身につけたスタッフとして迎えられ、円滑に業務を遂行するために必要な基本的マナーを習得する。また、実習や就職活動に際し、マナーに関して自信をもって臨める自分づくりを目的とする。			
15	科目の必須条件		必ずスーツを着用し、身だしなみを整えて出席すること。授業で学んだことを繰り返し練習し、また日常生活の中にも意識的に取り入れること。毎回実技のため、完全出席すること。 授業態度（20点）　実技・提出物（30点）　定期試験（50点） ※授業態度：発表やプリントの記入・提出、ロールプレイなどを真剣にすること等が授業参加の状態とする。私語、居眠り、携帯電話やスマートフォンを触るなどは授業の不参加の状態とみなす。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　　接遇マナーⅠの振り返りと接遇マナーⅡの受講目標・基本動作の確認			
		②	来客対応マナー　Ⅰ			
		③	来客対応マナー　Ⅱ			
		④	訪問マナー			
		⑤	手紙・はがきの書き方　　メールのマナー			
		⑥	冠婚葬祭のマナー			
		⑦	就職面接時のマナー			
		⑧	まとめ　接遇マナー前期授業に関するレポートと発表			
		⑨				
		⑩				
18	参考書					

1	課程		工業実務専門・商業実務専門 社会福祉専門	5	科目名	キリスト教学Ⅱ
2	学科		全学科	6	科目番号	5
3	授業時数		32時間（半期16時間）	7	期	前期・後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	本堀秀一	9	授業形態	講義
		資格	牧師		所属	キリスト教会
		実務経験	キリスト教牧師　10年以上			
11	教科書		新共同訳聖書			
12	関連資格・検定等		―			
13	科目の概要		現代社会の諸課題を取り扱いつつ、聖書を通して生命の尊さ、生きる意味、多様なものごとの捉え方を学ぶ。			
14	科目の到達目標		①積極的：キリスト教の基本原理が生きる意味と力を与えるものであることを知る。 ②消極的：キリスト教の教理を教え込み、生徒を入信させるためのものではない。			
15	科目の必須条件		成績は、出席率、態度、学習意欲、平常の提出課題、期末レポート等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　キリスト教について			
		②	YMCAとキリスト教について			
		③	社会問題とキリスト教①			
		④	社会問題とキリスト教②			
		⑤	旧約聖書			
		⑥	新約聖書			
		⑦	教会訪問			
		⑧				
		⑨	熊本YMCAの使命①　共に生きる社会　　熊本YMCAの使命②　地球環境の保全			
		⑩	熊本YMCAの使命③　生涯学習の推進　　熊本YMCAの使命④　ウェルネス活動			
		⑪	熊本YMCAの使命⑤　ボランティア活動　　熊本YMCAの使命⑥　平和な世界			
		⑫	イースターについて			
		⑬	クリスマスについて			
		⑭	熊本バンドについて			
		⑮	教会訪問			
		⑯				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教養講座Ⅱ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	6
3	授業時数		60時間	7	期	通年
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	演習
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		無し、プリント等使用			
12	関連資格・検定等					
13	科目の概要		専門科目を学ぶために必要な基礎学力を確かなものとするための学びに取り組みます。 専門的な学びを実践も踏まえながら取り組んでいきます。			
14	科目の到達目標		様々な環境にいる子どもたちに心を込めて接すること、そして。子どもたちの「SPIRIT」「MIND」「BODY」のバランスの取れた成長をサポートできる保育者を目指し、保育者としてのふさわしい自立した社会人になる。			
15	科目の必須条件		様々な経験を通して、全人的成長を目指す本講座は、一人ひとりが自ら考え、行動することを求めます。その為にも積極的に参加してほしいです。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	クラス役割決め・学科交流会話し合い			
		②	学科交流会話し合い、準備、役割分担			
		③・④	学科交流会リハーサル			
		⑤・⑥	学科交流会			
		⑦・⑧	スポーツデイ話し合い			
		⑨・⑩	スポーツデイ			
		⑪～⑮	実習準備			
		⑯・⑰	指導案作成　指導案添削、やり取り、書き直し　完成			
		⑱・⑲	教育実習お礼状作成・完成			
		⑳～㉒	前期振り返り			
		㉓・㉔	クラスキャンプ話し合い			
		㉕・㉖	クラスキャンプ話し合い			
		㉗	クラスキャンプ話し合い			
		㉘	前進際話し合い・準備			
		㉙・㉚	後期振り返り			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	ピアノⅠ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	7
3	授業時数		80時間	7	期	通年
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	上小園　浩子、渡辺ゆみこ、 隈部　文、橋口晶子、 桃山恭子、藤本理紗子	9	授業形態	実技
		資格	教員免許（中学校教諭1級免許/高等学校教諭2級免許/ ピアノ講師資格		所属	個人教室
		実務経験	①音楽教室（個人レッスン）20年以上・専門学校講師20年以上　YMCA水前寺幼稚園Yっこ教室　5年以上、大学音楽科講師2年　②音楽教室11年③ピアノ教室　26年　　④⑤⑥幼稚園保育園でのリトミック指導			
11	教科書		ピアノ教本（バイエル）　こどものうた１００			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		初心者は、ピアノ奏法の基礎技術と日常の保育に必要な読譜力の修得を目指します。学生が自らピアノに向かい練習する姿勢を身につけます。経験者はさらに幼児、児童の感性を豊かに育てるための演奏技術の向上を目指します。初心者はもちろんのこと、経験者も理論面の確認を行い、個人練習絵をするための基礎を養います。			
14	科目の到達目標		近大テキストの所定の曲をすべて終了し、近大スクーリングにて「音楽Ⅰ－①」に合格するように取り組みます。			
15	科目の必須条件		授業以外に各自必ず練習する時間を作ってよく引き込んだ状態で授業に参加してください。忘れ物（ヘッドフォン、楽譜）の忘れ物は厳禁です。もし忘れた場合は授業前に準備してください。 爪は短く、ピアノ室は飲食厳禁。 スクーリングで試験を受けるには、１週間前までに上記の曲を合格していることが条件です。 前期終了時に所定の曲を合格していない学生は単位の履修が認められません。 実技試験、授業態度（私語、忘れ物、携帯電話の使用・挨拶） 出席率、曲の進度など総合的に評価します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　進行表（別紙）に添って、各自の進度に合わせてレッスン			
		②	細かい合格達成目標番号を講師より伝えますので、設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。			
		③	設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。			
		④	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑤	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑥	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑦	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑧	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑨	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑩	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑪	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑫	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑬	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑭～⑯	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。表現力向上のためのレッスン			
		⑰～⑳	試験に向けて、課題番号の発表、練習			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	ピアノⅡ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	8
3	授業時数		80時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	上小園　浩子、渡辺ゆみこ、 隈部　文、橋口晶子、 桃山恭子、藤本理紗子	9	授業形態	実技
		資格	教員免許		所属	個人教室
		実務経験	①音楽教室（個人レッスン）20年以上・専門学校講師20年以上　YMCA水前寺幼稚園Yっこ教室　5年以上、大学音楽科講師2年　②音楽教室11年③ピアノ教室　26年　　④⑤⑥幼稚園保育園でのリトミック指導			
11	教科書		ピアノ教本（バイエル）　こどものうた１００			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		初心者は、ピアノ奏法の基礎技術と日常の保育に必要な読譜力の修得を目指します。学生が自らピアノに向かい練習する姿勢を身につけます。経験者はさらに幼児、児童の感性を豊かに育てるための演奏技術の向上を目指します。初心者はもちろんのこと、経験者も理論面の確認を行い、個人練習絵をするための基礎を養います。			
14	科目の到達目標		近大テキストの所定の曲をすべて終了し、近大スクーリングにて「音楽Ⅰ－①」に合格するように取り組みます。			
15	科目の必須条件		授業以外に各自必ず練習する時間を作ってよく引き込んだ状態で授業に参加してください。忘れ物（ヘッドフォン、楽譜）の忘れ物は厳禁です。もし忘れた場合は授業前に準備してください。 爪は短く、ピアノ室は飲食厳禁。 スクーリングで試験を受けるには、１週間前までに上記の曲を合格していることが条件です。 後期終了時に所定の曲を合格していない学生は単位の履修が認められません。 実技試験、授業態度（私語、忘れ物、携帯電話の使用・挨拶） 出席率、曲の進度など総合的に評価します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　進行表（別紙）に添って、各自の進度に合わせてレッスン			
		②	細かい合格達成目標番号を講師より伝えますので、設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。			
		③	設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。			
		④	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑤	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑥	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑦	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑧	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑨	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑩	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑪	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑫	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑬	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。			
		⑭～⑯	指を動かす練習。設定されてる目標に沿って合格できるよう、各自練習を行い、レッスンを受ける。 音楽理論の基礎を学ぶ時間を設ける。表現力向上のためのレッスン			
		⑰～⑳	試験に向けて、課題番号の発表、練習			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	声楽Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	9
3	授業時数		40時間	7	期	通期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	上小園　浩子	9	授業形態	講義　・　実技
		資格	教員免許		所属	個人教室
		実務経験	ヤマハ音楽教室13年			
11	教科書		近畿大学テキスト　音楽（声楽教本）　リズムの基礎　コピー楽譜			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		演奏技術を習得するために音楽の基本であるソルフェージュ力（読譜ーリズム・音程・聴音）を養います。 スクーリングの課題であるコールユーブンゲン・コンコーネを練習します。			
14	科目の到達目標		スクーリング受験資格は定期試験合格することとします。声楽はクラス授業であるため、個人的にチェックする必要があり、授業の後半に個別レッスンします。			
15	科目の必須条件		音楽は歌に始まり歌に終わるといいます。声の出し方（発生）学ぶことによって、保育に必要な演奏技術の向上を、目指します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	出欠、オリエンテーション			
		②	発声			
		③	子どもの歌（季節の歌など）			
		④	リズム・聴音（コード）			
		⑤	コールユーブンゲン（テキスト）			
		⑥	コンコーネ（テキスト）			
		⑦	歌（テキスト）　讃美歌（プリント）　歌うたい歌			
		⑧	個別レッスン①			
		⑨	個別レッスン②			
		⑩	個別レッスン③			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	声楽Ⅱ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	10
3	授業時数		40時間	7	期	通期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	上小園　浩子	9	授業形態	講義　・　実技
		資格	教員免許		所属	個人教室
		実務経験	ヤマハ音楽教室12年			
11	教科書		近畿大学テキスト　音楽（声楽教本）　リズムの基礎　コピー楽譜			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		演奏技術を習得するために音楽の基本であるソルフェージュ力（読譜ーリズム・音程・聴音）を養います。 スクーリングの課題であるコールユーブンゲン・コンコーネを練習します。			
14	科目の到達目標		スクーリング受験資格は定期試験合格することとします。声楽はクラス授業であるため、個人的にチェックする必要があり、授業の後半に個別レッスンします。			
15	科目の必須条件		音楽は歌に始まり歌に終わるといいます。声の出し方（発生）学ぶことによって、保育に必要な演奏技術の向上を、目指します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	出欠、オリエンテーション			
		②	発声練習			
		③	子どもの歌（季節の歌など）			
		④	リズム・聴音（コード）			
		⑤	コールユーブンゲン（テキスト）			
		⑥	コンコーネ（テキスト）			
		⑦	歌（テキスト）　讃美歌（プリント）　歌うたい歌			
		⑧	個別レッスン①			
		⑨	個別レッスン②			
		⑩	個別レッスン③			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	野外教育演習
2	学科		こども保育科	6	科目番号	11
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	下田　奈央子	9	授　業　形　態	演習
		資格			所　属	公益財団法人熊本YMCA
		実務経験	スポーツインストラクター10年以上 キャンプ指導者10年以上			
11	教科書		キャンプ指導者入門・野外教育の理論と実際・YMCAキャンプハンドブック			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許・キャンプインストラクター			
13	科目の概要		日本キャンプ協会インストラクター養成カリキュラムを履修し、資格取得を目指します。理論と技術の習得はもちろん、指導者としての更なるステップアップを目指します。			
14	科目の到達目標		キャンプインストラクターとして、実際に指導できるレベルを目指します。また、YMCAのキャンプスタンダードを合わせて学ぶことで、日本で初めて教育キャンプを行ったYMCAのキャンプリーダーとして活躍できるようにする。			
15	科目の必須条件		1泊キャンプインストラクター実習に必ず参加すること。 夏休みのキャンプ実習にて、実際に子ども達のキャンプ指導をすること。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	キャンプの定義・歴史（キャンプ目的・意義・ルールとマナー、環境教育）			
		②	指導者・リーダーの役割			
		③	子どもの発育発達と対象理解（人間と自然、人間の理解、自然の理解）			
		④	キャンプの安全（リスクマネジメント、事故事例に学ぶ）			
		⑤	ゲームの指導（参加者体験）			
		⑥	キャンプの企画			
		⑦	キャンプの運営・評価			
		⑧	キャンプの企画・運営・評価（まとめ）			
		⑨	カウンセリング（ケーススタディ・ロールプレイ）			
		⑩	これからのキャンプ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	実習指導
2	学科		こども保育科	6	科目番号	12
3	授業時数		40時間	7	期	通期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	講義
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		教育・保育実習のデザイン			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		実習の目的、意義をしっかりと理解し、教育現場において、より積極的な取り組みができるよう、事前の準備・計画、実習後の振り返りまでの流れを学びます。 教育実習Ｉの「保育の実態を観察し、それまでに学習してきた知識や理論などを子どもとの生活を通して、教育現場で実践する」という目的を達成するための準備・実践・振り返りを行います。			
14	科目の到達目標		実習までに、年齢の発達を考えた指導案を作成する。責任をもって保育を行うことを理解できる。			
15	科目の必須条件		実習で得た課題を今後の学習に生かせるよう、省察を丁寧に行っていきましょう。 社会人としてのマナーを身に付ける。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	教育実習の流れ　実習オリエンテーション〈電話かけ）　自己目標、課題の設定①			
		②	自己目標、課題の設定②　指導案について			
		③	指導案について　および作成（指導案提出、締め切り日厳守）			
		④	指導案作成（指導案②）			
		⑤	指導案作成			
		⑥	教育実習に向けて			
		⑦	実習振り返り、省察（報告書作成）			
		⑧	報告会準備、報告書作成			
		⑨	報告会準備・報告会リハーサル			
		⑩	報告会（日程は後日調整）			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	就職対策
2	学科		こども保育科	6	科目番号	13
3	授業時数		40時間	7	期	通期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	演習
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		それぞれのこれからの人生を考える中で、自分の方向性を明確にしていきます。 次年度の就職活動に向けて、就職状況がどのようなものかを知る中で、これからどのようなことに取り組んでいけばいいのかを共に考えます。			
14	科目の到達目標		就職に向けて、自分自身をしっかりと見つめていってほしいです。 前期・後期に行われる正規実習（資格取得のための実習）では就職活動の一環としての立ち振る舞いなどの練習を行いながら、就職について考えていけるようになる。			
15	科目の必須条件		黒ボールペン・メモ 提出期限に必ず提出すること。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　　アンケート　　卒業生の就職状況について			
		②	電話のかけ方　　※教育実習園へのオリエンテーションのアポイントメント			
		③	園訪問における立ち振る舞いについて　　書類渡し（評価表・出勤簿・返信用封筒準備）			
		④	実習に向けて①　お礼状について			
		⑤	実習に向けて②			
		⑥	お礼状作成（下書き・清書）			
		⑦	教育実習の振り返り・自分の課題について			
		⑧	就職活動について			
		⑨	後期に向けて（保育実習・施設実習にむけての内容）			
		⑩	夏休みの過ごし方について（宿題の提出・後期開始後の授業）　　自主実習の取り組みについて			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	卒業制作
2	学科		こども保育科	6	科目番号	14
3	授業時数		60時間	7	期	通期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	演習
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		3年間の学びの集大成として、表現活動を自分たちだけの手で作り上げることにより、問題解決能力、自主性、コミュニケーション能力等、総合的な力を高めます。卒業発表会はあくまでも最終的な結果であり、本来の目的はその発表会に至るまでの過程にあります。			
14	科目の到達目標		舞台で表現するということは、自分たちが伝えたい事をお客さんに伝えるということです。お客さんとは子どもたちです。将来関わる子どもたちに対して、この3年間の学びの中で自分たちも感じた事をぜひ子どもたちに伝えたい事、それがこの卒業発表会のテーマになります。その後、子どもたちに伝えるためにはどんな手段がいいのかを考えていくことが大事です。			
15	科目の必須条件		子どもはどう感じるだろうか？と、常に観客の目線に立ってステージを構成するように心がけてください。その視点は本番当日まで常に忘れないようにしましょう。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	出欠、オリエンテーション　卒業発表会とは。			
		②	どのような話合にしていくのか、ルール決め			
		③	どう決めていくのか話合い			
		④	総監督決め			
		⑤	その他役割（副総監）			
		⑥	演目決め			
		⑦	演目役割			
		⑧	演目内容決め			
		⑨	脚本作成　練習（劇、ダンス、合唱）開始			
		⑩	話合い（広報）園決め			
		⑪	広報（ポスター・チラシ）作成　園案内　保護者・スタッフ等への案内			
		⑫	練習（劇、ダンス、合唱）　音合わせ、照明			
		⑬	会場確認　依頼			
		⑭	練習（劇、ダンス、合唱）			
		⑮～⑳	練習（劇、ダンス、合唱）　当日			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	英会話Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	15
3	授業時数		20時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	李　英	9	授業形態	講義
		資格	中学校・高等学校教諭専修免許		所属	
		実務経験	ALT（外国語指導助手）7年、熊本YMCAグローバル事業部非常勤英語講師13年			
11	教科書		Happy English for Childcare保育のための基礎英語			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概要		・基礎的な英会話に学習（Happy English for Chaildcare使用） ・グループアクティビティーなどによる会話の実践 ・歌、早口言葉などの英語の音遊び			
14	科目の到達目標		・英語を手段として、他人とコミュニケーションをとれるようにします。 ・将来の職場である保育園や幼稚園で「子どもたちが外国人と英語で触れ合う時間」に、親しみを持って 　参加できるようになります。			
15	科目の必須条件		・できるだけ多くの英語を話しましょう。 ・将来保育士や幼稚園教諭になったときを想像しながら、授業に参加しましょう。 （例えば外国人講師や英語しか理解できない子どもに接する自分を想像しながら等）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	シラバスの説明、Unit 1 Preased to meet you（挨拶）			
		②	Unit ２ I'm from nagoya.（私は、名古屋出身です。）			
		③	Unit ５　How are you?　（お元気ですか）			
		④	Unit ６　Could you say that agein,piease?（もう一度言っていただけますか。）			
		⑤	Unit ９　Do you have any hobbies?　（趣味をお持ちですか。）			
		⑥	Unit １２　Thank　you for the chocolates.　（チョコレートありがとうございます。）			
		⑦	Unit １４　How was your weekend?　（週末はいかがでしたか。）			
		⑧	Unit １５　These pancakes are delicious!　（このホットケーキ、おいしい！）			
		⑨	Unit １８　How mach is this sweater?　（このセーターは、いくらですか。）			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	健康科学
2	学科		こども保育科	6	科目番号	16
3	授業時数		20時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	末松　大喜	9	授業形態	講義
		資格	体育科学修士 認定ストレングス＆コンディショニングトレーナー		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	スポーツインストラクター4年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教科書		運動遊びの基礎と展開			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概要		・保育者として運動遊びに必要な基礎的事項をはじめ、幼児期の神経系や運動の効果・知識や現状を 　把握し、スキルを身に付けます。 ・子どもたちが遊びを通して、ソーシャルスキルを身に付けることを知ります。			
14	科目の到達目標		・運動遊びによる、幼児期の心身の影響と効果について学びます。 　実践に基づいた運動遊びを企画立案し、実際に行うことで、自分のものにしていきます。			
15	科目の必須条件		・配布されたプリントには板書されたものを書きとるのではなく、内容を理解しながらまとめていきましょう。 ・授業中の携帯電話及びメールの使用は禁止します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	自らが体験した遊びについて　　座学：子どもの運動遊び			
		②	体を動かす楽しさを知ろう　　実技：鬼ごっこ			
		③	心身の発達・運動機能の発達（座学）			
		④	レクリエーション・協力ゲーム（実技）			
		⑤	運動遊びの指導（座学）			
		⑥	年齢に合ったサーキット遊び（実技）安全に配慮した			
		⑦	運動遊びの実態（座学）			
		⑧	組み体操・運動会種目について（座学）　リレーと組み体操			
		⑨	運動遊びの環境整備・社会学（座学）			
		⑩	散歩の注意点（実技・本妙寺）バス			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉課程	5	科目名	情報処理入門Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	17
3	授業時数		20時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	岩切　和子	9	授業形態	演習
		資格	MOS Word2003 Expert,MOS Excel2003 Expert,日商ワープロ検定2級		所属	
		実務経験	自治体主催パソコン講座非常勤講師、小学校総合学習パソコン担当非常勤講師、専門学校非常勤講師30年以上			
11	教科書		Wordマスター演習問題集 2019対応			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概要		テキストやプリントを教材にして基礎的な説明を行います。 Wordの便利で効率的な使い方を習得します。 検定問題で検定対策を行います。			
14	科目の到達目標		ブラインドタッチをマスターし、入力スピードをあげます。 園だより、ビジネス文章などの作成が自在にこなせるように、ワードの機能をマスターします。 検定への合格を目指します。			
15	科目の必須条件		毎日の授業を大切にすること。 説明に耳を傾け、粘り強く練習すれば、必ず上達します。 検定合格など、目標を設定し練習に励んでください。 伸びようとする気持ちが大切です。 平常点（授業態度・意欲・出欠状況）　50点　　到達度確認テスト・定期試験　　51点 授業中の携帯電話操作は授業不参加の状態とみなし、平常点から減点します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	起動　文字の入力練習　保存　印刷　終了操作			
		②	文字入力　レイアウトの整え方　Wordの機能を使った文章　表の作成			
		③	検定問題練習（個人のレベル別）　スマートアートを使った例題			
		④	検定問題練習（個人のレベル別）　複雑な罫線			
		⑤	Wordの機能を使った文章　検定問題練習			
		⑥	Wordの機能を使った文章　検定問題練習			
		⑦	Wordの機能を使った文章　検定問題練習			
		⑧	Wordの機能を使った文章　検定問題練習			
		⑨	Wordの機能を使った文章　検定問題練習			
		⑩	Wordの機能を使った文章　検定問題練習			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	日本国憲法
2	学科		こども保育科	6	科目番号	18
3	授業時数		30時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	澁谷　洋平	9	授業形態	講義
		資格	法律修士		所属	熊本大学　日本刑法学会 日本医事法学会
		実務経験	大学15年以上　専門学校講師10年以上			
11	教科書		日本国憲法			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概要		日本国憲法については、社会の授業で勉強してきたことと思います。憲法とは、私たちの社会生活を規律するすべての法の「頂点」に位置する法規範です。			
14	科目の到達目標		本授業では、日本国憲法を「考えてみる」ことによって、現代社会における憲法の意義を理解し、社会人として必ず要求される素養・法的な思考方法を身につけることを目標としてます。			
15	科目の必須条件		法学には、難解な専門用語が多々登場しますので、そうした言葉を記憶、理解することが学習の第一歩になります。「自分の日常生活を思い浮かべながら、自由に考えることを心掛けてください。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	自己紹介　授業案内　憲法を学ぶことの意義			
		②	法学の基礎			
		③	日本国憲法の地位と基本原理			
		④	基本的人権（1）　人権総論、包括的基本権、法の下の平等			
		⑤	基本的人権（2）　精神的自由権（1）内心の自由			
		⑥	基本的人権（3）　精神的自由権（2）　表現の自由			
		⑦	基本的人権（4）　経済的自由権			
		⑧	基本的人権（5）　心身の自由			
		⑨	基本的人権（6）　国務請求権・参政権・社会権			
		⑩	統治機構（1）　権力分立と国会・内閣・裁判所			
		⑪	統治機構（2）　地方自治財政			
		⑫	平和主義（1）　総論			
		⑬	平和主義（2）　各論			
		⑭	課外活動（予定）			
		⑮	総復習（教科書のチェックポイントの解説）試験案内			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	幼児の心理学
2	学科		こども保育科	6	科目番号	19
3	授業時数		20時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	中満　弓子	9	授業形態	講義
		資格	教育学士 （Counselor　Education） MASTER　of　SCIENCE		所属	
		実務経験	熊本県精神保健福祉センター10年以上 （精神）障害者地域生活支援10年以上 スクールカウンセラー10年以上			
11	教科書		実践に活かす教育心理学			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概要		子どもの発達援助ために知っておくべき心理学の基礎理論を概観します。 主に認知の発達、学習理論、知能とパーソナリティ、教育評価といった内容を具体的場面に当てはめながら理解できるようにしていきます。			
14	科目の到達目標		・心・心理学について基本的な理解を深めます。 ・保育教育に関連のある心理学論理にふれ、根拠のある子どもの理解や関わりをすることの大切さを知ります。			
15	科目の必須条件		・プリントなどは一度しか配りません。なくした時は友達にコピーさせてもらうなど自分で対処しましょう。 ・提出や欠席等、自分のことは自分で責任を持って管理してください。 ・わからないことがあったら、そのままにせず、なるべく早めに質問・確認すことが大事です。 ・ノート提出　　20%（試験前に提出） 提出期限厳守、学生番号名前の明記、抜けがないよう完成させましょう。 ルーズリーフの場合左肩で止めるなど、内容以外も評価します。 ・定期試験　　80%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　心・心理学と保育教育			
		②	認知の発達1			
		③	認知の発達2			
		④	学習1			
		⑤	学習2			
		⑥	学習3			
		⑦	知能			
		⑧	パーソナリティ			
		⑨	教育評価			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育原理
2	学科		こども保育科	6	科目番号	20
3	授業時数		30時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	講義
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　専門学校教員20年以上			
11	教科書		テキスト　保育のための教育原理			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概要		教育の本質・意義・昨日に関する理論的知識を習得する。現代社会における教育の諸問題について考察する力を身につけ、幼児期の教育の基本原理と特性を理解することを望みます。			
14	科目の到達目標		幼稚園現場における「教育」の在り方について、実践的な課題を常に念頭に置き、それぞれの考え方を確立していってほしいです。			
15	科目の必須条件		教育学の基礎知識をしっかりと自分のものにし、現在社会の教育の諸問題についてこうさつし、自分の考えをまとめていってほしいと願っています。 平常点（出席・授業態度）20点（1回欠席ごとに−5点） 定期試験　　80点 その他　提出物、授業参加状況（忘れ物、私語等減点の対象とします。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100−80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79−70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69−60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59−0）			
17	講義のスケジュール	①	出欠、オリエンテーション　教育とは何か			
		②	教育観の類型について			
		③	現在における教育の課題について			
		④	教育において子どもを理解することの重要性について			
		⑤	教育の目的について			
		⑥	教育の内容について			
		⑦	教育における評価とは			
		⑧	日本と諸外国の学校制度について			
		⑨	公教育制度の特徴について			
		⑩	教育者の資質　　教職の専門性について			
		⑪	情報化社会における教育の在り方について			
		⑫	教育を取り巻く現在的課題の考察①			
		⑬	教育を取り巻く現在的課題の考察②			
		⑭	教育を取り巻く現在的課題の考察③			
		⑮	まとめ			
18	参考書		教育原理　保育実践への教育学的アプローチ			

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	造形表現（指導法）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	21
3	授業時数		20時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	松下　七美	9	授業形態	講義
		資格	高等学校教諭一種「美術」 中学校教諭一種「美術」		所属	湧心館高校全日制 熊本県美術家連盟会員
		実務経験	高等学校「美術」10年以上　専門学校での「造形表現」8年			
11	教科書		「幼児造形の基礎」乳幼児の造形表現と造形教材			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概要		色彩の基礎理論と色彩の表現技術・モノを画くためのデッサン技術、モダンテクニックの体験・お面つくりの工作技術など、保育園や幼稚園の造形表現に必要な指導法について学習します。			
14	科目の到達目標		造形の基礎知識と表現技術は、児童を指導するためには必要です。造形表現に必要な素材体験と作品の制作を実習する。			
15	科目の必須条件		自ら完成を磨く訓練・習慣を持つことを求めます。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	友人のデッサン及び色彩（絵画）			
		②	上記作品をお面として完成する（工作）			
		③	色の三原色・明度・彩度・色あいの実習（デッサン）			
		④	モダンテクニック　スクラッチ（デザイン）			
		⑤	モダンテクニック　マーブリング（デザイン）			
		⑥	花を題材に細密描写（絵画）			
		⑦	上記作品を彩色する（絵画）			
		⑧	県立美術館　美術鑑賞（鑑賞）			
		⑨	粘土工作（工作）			
		⑩	版画実習（絵画・工作）			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉課程	5	科目名	幼児と言葉
2	学科		こども保育科	6	科目番号	22
3	履修単位		20時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	井上　和美	9	授業形態	講義
		資格	保育士資格・幼稚園教諭Ⅰ種		所属	YMCA熊本五福幼稚園
		実務経験	保育士3年　　幼稚園園長13年			
11	教科書		幼児と言葉			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概要		・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ・子どもの発達における言葉の重要性について理解する。 ・絵本の読み聞かせをする意味を知る。			
14	科目の到達目標		・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの役割や言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ・言葉選びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・児童文化(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。			
15	科目の必須条件		・幼児期の言葉は、生活全般にかかわり、その育ちに影響力をもつことを理解してほしい。 ・自分の言葉を見つめ直しながら、言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにするよう心掛けてほしい。 ・発段階に合わせた絵本に興味を持ち、自分で選べるようになってほしい。 平常点　　50点 出席点　　10点 作品　　40点			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講義のスケジュール	①	言葉とは　言葉の発達(0～2歳)			
		②	言葉の発達(3～6歳)			
		③	特別な配慮が必要な子どもの保育について			
		④	領域「言葉」ねらい・内容			
		⑤	絵本に触れよう			
		⑥	紙芝居作成　内容決め　下書き			
		⑦	紙芝居作成			
		⑧	紙芝居作成			
		⑨	紙芝居作成			
		⑩	発表			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書		幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2017年告示)			

1	課程		社会福祉課程	5	科目名	幼児と人間関係
2	学科		こども保育科	6	科目番号	23
3	授業時数		20時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	水上　里美	9	授業形態	講義
		資格	幼稚園教諭・小学校教諭免許 保育士 特別支援教諭		所属	
		実務経験	専門学校教員4年			
11	教科書		幼児と人間関係ー保育者をめざすー			
12	関連資格・検定等		教師学基礎講座保育編インストラクター、ネイチャーゲームリーダー			
13	科目の概要		領域「人間関係」の意義やねらい、内容を理解し、子どもを取り巻く社会状況を踏まえ、人間関係をめぐる諸課題の解決、支援について学ぶ。子どもの発達過程における、人と関わる力の重要性を理解し、人間関係を育む保育者の役割と援助について学ぶ。			
14	科目の到達目標		子どもを取り巻く社会の状況を把握し、支援が必要なポイントを理解する。子どもの発達過程において、人と関わる力の重要性を理解する。			
15	科目の必須条件		グループワークやロールプレイへの積極的な参加。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション			
		②	領域「人間関係」のねらいと内容			
		③	乳幼児期における人との関わりの発達と保育者の援助			
		④	愛着形成			
		⑤	子どもの自立心			
		⑥	トラブルから思いやりへ			
		⑦	道徳性と規範意識			
		⑧	個と集団の育ち			
		⑨	子どもを取り巻く人間関係			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉課程	5	科目名	幼児と環境
2	学科		こども保育科	6	科目番号	24
3	授業時数		20時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	百合本　佳乃	9	授業形態	講義
		資格	保育士・幼稚園教諭2種免許 心理カウンセラー		所属	
		実務経験	幼稚園教諭・保育士経験（学童含む）15年以上、子育て講師・子育て相談・子育て塾5年			
11	教科書		「保育内容　環境　あなたならどうしますか？」			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		保育内容指導法（環境）では、幼稚園教育要領や保育所保育指針等を確認し、実際の保育・幼児教育現場における活動や環境構成とその意図について学ぶことを目的としています。 領域「環境」について記載している箇所を理解すると共に、実践事例をもとに、子どもたちが活動するにあたって構成する環境やその活用方法について学びます。その際、「環境」との関わりを通して子どもが身につける／身につけることができる資質・能力について学ぶとともに、保育者としての援助方法についても学んでいきます。			
14	科目の到達目標		五領域「環境」の内容・ねらいを理解し、実践していける方法や保育環境について工夫していけるようにする。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿についての理解を深め実践していけるようにする。 授業での学びが実際の活動現場においてどのように展開（環境構成）されているのか、そしてその環境を通して子どもたちの学ぶがどのように展開されているのか学んでいきます。			
15	科目の必須条件		保育者を志す者としての自覚と責任をもって、生活することから心がける。 日々の生活の中でも環境について、関心を持つ。 試験80点　　平常点20点（意欲や態度） 欠席1回につき－5点　　遅刻1回につき－2点			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（授業の進め方、成績評価の説明等） （授業の進め方、成績評価の説明等）領域「環境」の授業内容，学習方法の概略を理解する。			
		②	領域「環境」について 領域「環境」について内容を扱う対象、活動で分類し、領域「環境」で育てたい 資質・能力を理解する。			
		③	子どもを取り巻く人的環境 保育者も環境を構成する一つであることを理解し、援助方法や見守りについて学ぶ。			
		④	子どもを取り巻く物的環境 園庭や教室・保育室における物的環境の構成について学ぶ。コーナー保育・遊具の設定など、 子どもたちの身の回りの環境に関して深める。			
		⑤	子どもを取り巻く社会的環境			
		⑥	子どもを取り巻く自然環境 園内及び園外には社会的環境（地域社会）、自然環境があることを理解し、その活用方法や活動と通して得ることができる成果について学びます。			
		⑦	文字，数量，図形への気づき 文字，数量，図形などの内容について，生活や遊びとのかかわりから，理解を深める。			
		⑧	自然素材を活かす活動 自然の樹木や葉の素材について，野外にて観察し理解する。様々な素材を利用した活動を行い， 知識と技能を修得する。			
		⑨	幼稚園・保育所における環境構成について 安全かつ創造的な環境構成について理解する。子どもの動線を意識した保育環境を考える。			
		⑩	気になる子どもと環境			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	社会福祉
2	学科		こども保育科	6	科目番号	25
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	日野　充裕	9	授業形態	講義
		資格	社会福祉学修士 社会福祉士		所属	
		実務経験	専門学校講師30年以上　高校非常勤講師21年　大学非常勤講師6年			
11	教科書		コメディカルのための社会福祉概論			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		社会福祉の歴史や制度について学んだ後に、これからの日本において「社会全体で人を支える」ことに ついて、グループでのディスカッション等を行いながら、クラス全員で考察します。			
14	科目の到達目標		社会福祉の基礎を学び、身近な社会福祉について理解を深めることができます。			
15	科目の必須条件		テレビや新聞、インターネットなどを活用し、身近な福祉の話題について集めましょう。 ①出席　10点　②授業内での発言　40点　③小レポート　20点　④期末テスト　30点 ※口述や筆記について配慮が必要な学生は、担当教員までご相談ください。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　身近な社会福祉ついて考えてよう			
		②	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷①（社会福祉の理念と概念、歴史的変遷）			
		③	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷②（子ども家庭福祉と社会福祉）			
		④	社会福祉の制度と実施体系①（制度と法体系、行財政と実施機関）			
		⑤	社会福祉の制度と実施体系②（社会福祉施設、専門職）			
		⑥	社会福祉の制度と実施体系③（社会保障及び関連制度の概要）			
		⑦	社会福祉における相談援助①（相談援助の理論）			
		⑧	社会福祉における相談援助②（相談援助の意義・機能、対象と課程）			
		⑨	社会福祉における相談援助③（相談援助の方法・技術）			
		⑩	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み①（情報提供と第三者評価）			
		⑪	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み②（利用者の権利擁護と苦情解決）			
		⑫	社会福祉の動向と課題①（少子高齢化社会における子育て支援）			
		⑬	社会福祉の動向と課題②（共生社会実現と障碍者施設）			
		⑭	社会福祉の動向と課題③（在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向）			
		⑮	まとめ			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子ども家庭福祉
2	学科		児童福祉教育科	6	科目番号	26
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	宮﨑　由紀子	9	授業形態	講義
		資格	修士（社会福祉）		所属	児童養護施設　菊水学園
		実務経験	専門学校講師13年　短大非常勤講師10年　教授4年			
11	教科書		子ども家庭福祉ー子どもと家庭を支援するー			
12	関連資格・検定等		保育士　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		・教科書の項目を重点に置きながら、配布プリントで最新情報を確認していきます。 ・社会問題になっている、虐待、DV、家族関係、いじめ、不登校について取り上げ、問題予防、問解決に 　必要な知識を、教科書を中心に、ビデオ、資料を使って行っていきます。すべての児童が「健やかに育つ」 　とはどういうことか、そのために今、何を考えなくてはならないのかを共に考えていきましょう。			
14	科目の到達目標		・児童福祉はすべての児童の生活を考える上で必要なことです。 ・児童時期に着目し、幅広く学んでいきます。 ・児童を取り巻く社会環境、などの現状を検討することにより、児童が直面している数々の問題と生存権、 　発達権の保障、児童の人権について理解を深めます。（子どもの権利）			
15	科目の必須条件		・周りの人へのの配慮として、私語は厳禁です。（退出を依頼します。その際は欠席です。） ・保育者として必要な知識のため、真面目に取り組んでほしいです。 ・出席（積極的な授業への参加）、提出物を重要視します。 ・期末にテスト・レポート提出にて評価します。 ・学期末テスト　60%　　授業態度　20%　　期限内提出　10%　　出欠　10%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　担当と児童福祉の歴史・学生の発表			
		②	児童福祉の歴史　子どもの現状（保育を必要とする子どもについて）と取り巻く変化			
		③	児童福祉に関する問題			
		④	制度政策			
		⑤	発達障害について（教育実習に向けて）　（脳の処理の違いについて）			
		⑥	障害をもつ子どもへの保育者社会状況内における児童福祉			
		⑦	専門職者に求められる人間性について			
		⑧	児童福祉施設における分類について（障害・育成・養護・保健）			
		⑨	児童福祉施設１１種類　行政施設、役割について（児童相談所・福祉事務所）			
		⑩	子どもたちの現状、（養護を必要とする子どもについて）			
		⑪	虐待児童福祉施設の役割　教育現場			
		⑫	子どもたちの健全育成について			
		⑬	一人親家族・母子保健対策・手当・専門職について			
		⑭	待機児童と認定こども園について			
		⑮	まとめ			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育原理
2	学科		こども保育科	6	科目番号	27
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	北﨑　恵理	9	授業形態	講義
		資格	保育士・幼稚園教諭専修免許		所属	
		実務経験	幼稚園4年　認可外保育所園長20年以上			
11	教科書		保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・保育原理			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		保育者を志す者としての自覚と責任を持って、生活をすることを日ごろから心がけましょう。 新聞記事、ニュース、関連図書にも関心をもちましょう。			
14	科目の到達目標		保育原理では、保育とは何かについて、保育の基盤となる基本的理論や知識を習得すると同時に、子どもを取り巻く現状や課題にも目を向け理解を深めていきます。			
15	科目の必須条件		単位取得の為、欠席の場合は課題レポートの提出が必要です。 前期試験70点　　課題提出物20点　　出席状況10点 （合計100点）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	子どもに寄り添う保育とは？			
		②	養護と教育について			
		③	子どもの発達①（発達過程）			
		④	子どもの発達②（乳児保育）			
		⑤	子どもの発達③（安全と発達）			
		⑥	園をつくろう①　（方針、園名、教育、保育内容）			
		⑦	園をつくろう②　（園の設置場所、園舎、園内デザイン）			
		⑧	園をつくろう③　（グループ発表）			
		⑨	保育の歴史　　（倉橋惣三について）			
		⑩	保育の内容・方法・計画・評価			
		⑪	子ども・子育て支援新制度について			
		⑫	子育て支援とは			
		⑬	特別支援教育とは			
		⑭	保育の現状と課題			
		⑮	まとめ			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	社会的養護Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	28
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	坂田　正輝	9	授業形態	講義
		資格	小学校教諭 CSP幼児版トレーナー		所属	自立援助ホームつばめ
		実務経験	児童養護施設　20年			
11	教科書		新・基本保育シリーズ6　社会的養護Ⅰ			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		パワーポイントやDVDなどを使用し授業を行います。学生の皆様には、記述式の用紙に要点を要約しながら 書き留めてもらいます。その都度、終わりに簡単なレポートを提出していただきます。			
14	科目の到達目標		社会的養護の中枢的な機能を担っている児童福祉施設の実際を学ぶことにより、保育士としての豊かな感性や援助技術等の専門性を培っていただきます。更に保育士としてだけではなく、地域に暮らす一人の人間としての資質も高めて社会的養護の本当の意味で構築に繋げてもらいたいです。また、社会的養護の変遷を理解しながら、子どもの権利や社会的養護の方向性を理解していきます。			
15	科目の必須条件		積極的に授業に参加し疑問や質問を行ってください。 また施設実習等へ備えての大切な科目であることを理解してください。 出席及びレポート　50%　　定期試験　50%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　社会的養護とは			
		②	現代社会に暮らす子どもと家族			
		③	子どもの権利			
		④	子どもの養護の歴史			
		⑤	社会的養護の体系:施設、家族			
		⑥	里親制度			
		⑦	施設養護の特質			
		⑧	施設養護の基本原理			
		⑨	児童虐待の現状			
		⑩	社会的養護とソーシャルワーク			
		⑪	施設養護の専門性Ⅰ			
		⑫	施設養護の専門性Ⅱ			
		⑬	児童福祉施設の運営管理			
		⑭	児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理			
		⑮	社会的養護のあるべき姿			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子どもの家庭支援論
2	学科		こども保育科	6	科目番号	29
3	授業時数		30時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	宮﨑　由紀子	9	授業形態	講義
		資格	修士（社会福祉）		所属	児童養護施設　菊水学園
		実務経験	専門学校講師13年　短大非常勤講師10年　教授4年			
11	教科書		実践で役立つ子ども家庭支援論			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		保育者は対人助職であり、子どもへの支援のみならず家庭や家族支援に係ることが求められる。 子ども家庭支援を実践するための社会資源の理解と求められる姿勢について学んでいく。			
14	科目の到達目標		子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する 子育て家庭に対する支援の体制について理解する			
15	科目の必須条件		事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読をしておく。事後学習については、授業中のミニテスト にて振り返り、課題（レポート等）についてまとめること。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	子ども家庭支援の意義と必要性			
		②	子ども家庭支援の目的と機能			
		③	保育者の専門性を生かした子ども家庭支援			
		④	子どもの育ちの喜びの共有			
		⑤	保護者や地域の子育て支援			
		⑥	保育者に求められる基本的態度			
		⑦	家庭の状況に応じた支援			
		⑧	地域資源の活用と自治体・関係機関との連携			
		⑨	子ども家庭支援の福祉を図るための社会資源			
		⑩	子育て支援政策・次世代育成支援施策			
		⑪	子ども家庭支援の内容			
		⑫	保育所を利用する子ども家庭への支援			
		⑬	地域の子育て家庭への支援			
		⑭	要保護児童とその過程に対する支援			
		⑮	子ども家庭支援に関する現状と課題			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	幼児への特別な支援
2	学科		こども保育科	6	科目番号	30
3	授業時数		20時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	福原　真理子	9	授業形態	講義
		資格	保育士・幼稚園教諭2種・社会福祉主事任用資格・社会福祉士・精神保健福祉士		所属	株式会社　和剛
		実務経験	保育園6年　児童発達支援センター　3年 児童相談所1年 障がい者グループホーム統括管理者　サービス管理責任者 スクールソーシャルワーカー			
11	教科書		よくわかる障害児保育　第2版			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		テキストだけではなく、さまざまな文献を読み、障がいに関する理解を深めておくことを求めます。ニュースやテレビ番組などでよりあげられる,障がいや障害児への支援に関する最新情報などを積極的に活用します。			
14	科目の到達目標		障がい児保育の対象となる障がいの特徴について理解します。 障害児保育の実際や保護者への支援に関する基礎的な知識を習得します。 小学校への移行や他機関との連携などに関する基礎的な知識を習得します。			
15	科目の必須条件		テキストを熟読しておくこと。また各自特別支援教育や障害児保育に関連する書籍を積極的に読み込み、保育者として「自分ならどうかかわるか」「自分ならどのように支援するか」を考えておきましょう			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) Ｂ:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) Ｃ:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) Ｄ:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講義のスケジュール	①	障害児保育の歴史と理念			
		②	乳幼児期の発達的問題			
		③	知的遅れのある子どもの保育			
		④	体の不自由な子どもの保育			
		⑤	自閉症スペクトラム障害の理解と保育現場における支援			
		⑥	ADHDの理解と保育現場における支援			
		⑦	視覚障害・聴覚障害の理解と支援			
		⑧	就学に向けて			
		⑨	保護者への支援			
		⑩	障害児保育の実践			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子どもの食と栄養
2	学科		こども保育科	6	科目番号	31
3	授業時数		20時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	秋吉　澄子	9	授業形態	講義・実技
		資格	管理栄養士		所属	尚絅大学
		実務経験	病院・企業　管理栄養士6年			
11	教科書		「子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養」（第１１版）			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		教科書を参照しながら、授業はパソコンを使用して子どもの食の大切さを示していく授業で聞くだけで泣くレポートを作成しながらポイントを押さえていく、子どもの食の問題点を食生活チェックから見出し、それに対する食育を紙芝居方式で発表の演習を行う、また調理実習で離乳食、、幼児の食事作りやもちつきを通して食材の取り扱い、調理法、おいしさをグループの共同作業で学びましょう。			
14	科目の到達目標		子どもは、乳幼児期・幼児期から学童期・青年期の各時期を経て、生理的、身体的に大きく成長していく。この各時期の身体の生理学的特徴と栄養・成長における相互の重要性や、心の健康、アレルギーはじめとする体調不良疾患の問題影響を理解しながら、保育者としての対応・役割を学ぶ、その中で、子どもの食の問題を見出し、改善策を演習式で学びながら、食育の実践力を養うことを目的とします。			
15	科目の必須条件		将来保育者としての職務に必要なことを中心に生活習慣としても重要なことを自主的・積極的に取り組む姿勢で、食が子どもの発達のすべてで、栄養、食生活の里式、技術を身に付けるように努力すること。調理実習で衛生知識をはじめ、食材の取り扱い、調理法、栄養学的おいしさを学んでほしいです。清潔な身だしなみ、言葉使い、マナーを守ることとします。 出席点　20点　定期（筆記）試験　50点　実習態度グループ15点　レポート15点の配分で評価します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	栄養素に関する基本知識：栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能			
		②	栄養生理代謝に関する基本知識　（人体における食品からのエネルギー発生など）			
		③	妊娠期・授乳期の栄養食生活（胎児期の栄養）			
		④	子どもの食べる機能、消化吸収の発達と食生活（子どもの食生活チェック）			
		⑤	家庭や児童福祉施設における食事と栄養；調理実習（保育所求職）			
		⑥	家庭や児童福祉施設における食事と栄養；調理実習（保育所求職）			
		⑦	疾病および体調不良の子ども・食べ物アレルギーのあることもへの対応			
		⑧	保育所における食育の実践（紙芝居作成―グループワーク）			
		⑨	児童福祉施設における行事食（餅つき実習）			
		⑩	児童福祉施設における行事食（餅つき実習）			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子どもの保健
2	学科		こども保育科	6	科目番号	32
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	坂上　真美	9	授業形態	講義
		資格	助産師、看護師、保健師		所属	熊本バースクリニック
		実務経験	病院勤務（産婦人科）15年			
11	教科書		新版　よくわかる子どもの保健			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		子どもを取り巻く環境は時代と共に大きく変化し、課題も様々です。子どもが心身ともに健全に発育するために大人はどうあればよいか考えていきたいと思います。			
14	科目の到達目標		子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明ができる 子どもの心身の正常な発育及び、発達段階の各期の特徴を述べることができる。 子どもの保健行政について述べることができる。			
15	科目の必須条件		日頃から新聞やインターネットなどで子どもの健康に関する情報を収集しておいてください。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	出欠、オリエンテーション　子どものための小児保健			
		②	身体発育と保健			
		③	身体発育と保健			
		④	身体発育と保健			
		⑤	生理機能の発達と保健			
		⑥	生理機能の発達と保健			
		⑦	生理機能の発達と保健			
		⑧	運動会機能の発達と保健			
		⑨	精神機能の発達と保健			
		⑩	精神機能の発達と保健			
		⑪	子どもの精神保健・子どもの疾病について			
		⑫	子どもの精神保健・子どもの疾病について			
		⑬	子どもの生活と健康			
		⑭	授業のまとめ			
		⑮	授業のまとめ			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	多文化共生保育
2	学科		こども保育科	6	科目番号	33
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	講義
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		幼稚園教育要領、保育所保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、SDGs資料			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概要		文化の定義を学習し、異文化を相対的に理解することの意義について学ぶ。幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのための異文化間の対話が必要であることを理解する。			
14	科目の到達目標		授業を通して学んだ知識を活用し、日常生活において多文化共生の理解を深める。持続可能なしゃかいを目指し、多様性を認めていく知見を獲得していく。			
15	科目の必須条件		日頃から新聞やインターネットなどで子どもの健康に関する情報を収集しておいてください。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　文化の定義			
		②	グローバル化と教育			
		③	異文化理解の視点①			
		④	異文化理解の視点②			
		⑤	SDGs①			
		⑥	SDGs②			
		⑦	SDGs③			
		⑧	世界の幼児教育①			
		⑨	世界の幼児教育②			
		⑩	日本の幼児教育			
		⑪	家庭地域との連携①			
		⑫	家庭地域との連携②			
		⑬	多文化共生の視点を取り入れた保育①（グループワーク）			
		⑭	多文化共生の視点を取り入れた保育②（グループワーク）			
		⑮	グループ発表			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育の心理学
2	学科		こども保育科	6	科目番号	34
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	中満　弓子	9	授業形態	講義
		資格	教育学士・ MASTER of SCIENCE		所属	
		実務経験	熊本県精神保健福祉相談業務（非常勤）10年以上 障害者地域生活支援業務（非常勤）10年以上 スクールカウンセラー（非常勤）10年以上			
11	教科書		幼児の心理学			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概要		エリクソンの発達課題を中心に関連する理論を通して生涯発達について学ぶ。自分の過去・現在・未来を見つめたり、精神的成長・発達について意見交換したりしながら学習を進めていきます。			
14	科目の到達目標		人間の発達・成長について、子どもの時だけではなく、生涯にわたって学ぶ。自分が関わる子どもの一生を思いながら、今の時期にどうかかわればよいかを考える視点を持ちます。 青年期から成人期にどのような課題があるのか、そのようにしてその課題を達成していけばよいのか、自分自身の問題として考えていきます。			
15	科目の必須条件		作業等自主的積極的な活動が求められる。15回前回出席が必須のため自己管理を徹底しましょう。 定期試験（筆記試験）　80%　授業での活動・提出物　20%、			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション・子どもから大人へ			
		②	力動論による発達理論（フロイトとエリクソン）			
		③	自我発達と発達課題の考え方　ビデオ視聴			
		④	乳幼児期の発達課題　　児童期の発達課題			
		⑤	青年期の特徴　　青年期の発達課題			
		⑥	社会の中の青年について考える			
		⑦	親子関係の発達・自立について考える			
		⑧	人間関係・自分と他人につい て考える			
		⑨	成人期前期の発達課題			
		⑩	成人期中後期の発達課題			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子ども家庭支援の心理学
2	学科		こども保育科	6	科目番号	35
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	中満　弓子	9	授業形態	講義
		資格	教育学士・ MASTER of SCIENCE		所属	
		実務経験	県精神保健福祉相談業務（非常勤）10年以上 障害者地域生活支援業務（非常勤）10年以上 スクールカウンセラー（非常勤）10年以上			
11	教科書		新・基本保育シリーズ９　子ども家庭支援の心理学			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		保育相談支援の基本的地域や方法、技術を講義で学びます。 グループワークにおいて、自己理解を促したり、事例を基に保護者への対応を具体的に考えます			
14	科目の到達目標		保育相談支援の意義と基本について理解します。 保育相談支援の内容や方法を理解します。			
15	科目の必須条件		近大レポート（2冊）・近大科目終末試験（指定問題8設問）該当科目です。クリアできるように取り組みましょう。試験（レポート作成）の成績９０％　授業の積極的参加１０％			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	保育相談支援とは何か			
		②	保育相談支援の基礎			
		③	保育士と保育相談支援			
		④	事例①「保育者の対応」：各自保育者の子どもへの対応と保護者への対応を考える。			
		⑤	事例①「保育者の対応」：グループ学習と発表、解説			
		⑥	保育相談支援の技術と方法			
		⑦	事例②「保育者の対応」：グループ学習と発表、発表			
		⑧	事例②「保育者の対応」：解説と具体的支援の方法			
		⑨	特別な対応を必要とする家庭への保育相談支援			
		⑩	保育者の地域子育て支援における保育相談支援			
		⑪	科目終末試験対策			
		⑫	科目終末試験対策			
		⑬	科目終末試験対策			
		⑭	科目終末試験対策			
		⑮	科目終末試験対策			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育課程総論
2	学科		こども保育科	6	科目番号	36
3	授業時数		30時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	講義
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　　専門学校20年　短大非常勤講師20年以上			
11	教科書		あたらしい幼児教育課程総論			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		教育課程とは、教育の目的や目標を有効に達成するための教育内容を、子ども心身の発達に応じて、選定し、組織し、配列した教育を進めるための計画の全体である。したがって、幼稚園においては保育を進めるための計画の全体をさすものである。			
14	科目の到達目標		この教育課程そのもには、考え方により多様な類型が存在するが、本科目では、将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりが、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に教育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養うことを目標としています。			
15	科目の必須条件		子どもたちにとって必要な手立てとは…、保育を行う上で大切なこととは…など 一人ひとりがしっかり考え、受け止めてほしいです。 出席点　　２０点（1回欠席ごとに－５点） 定期試験　８０点 その他　　提出物・授業参加状況など（提出物において期限厳守でお願いします）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) Ｂ:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) Ｃ:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) Ｄ:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション			
		②	生涯学習と幼児期の関係			
		③	教育課程とは…　／　幼稚園養育と保育所保育の共通点			
		④	幼稚園における教育課程の基準の変遷について			
		⑤	「幼稚園教育要領」における幼稚園教育の基本について			
		⑥	「遊び」をどう捉えるか			
		⑦	「楽しさ」をどう捉えるか			
		⑧	目的・目標・ねらい・内容について			
		⑨	教育課程編成の手順			
		⑩	「指導」とは			
		⑪	指導計画の意義			
		⑫	指導計画作成のポイント			
		⑬	指導計画と指導の評価について			
		⑭	まとめ			
		⑮	振り返り			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育方法論
2	学科		こども保育科	6	科目番号	37
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	講義・演習
		資格	教員資格		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　　専門学校20年　短大非常勤講師20年以上			
11	教科書		幼児教育・保育のための教育方法論			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		教育の方法に関する理論的知識を取得する 乳幼児期の教育（保育）方法に関する基本的原理を知り、保育現場における実践を構想する。			
14	科目の到達目標		教育方法についての知識や理解を深めながら、保育現場での実践を想定し、自分なりに構想していけるようになる。様々な保育の在り方、方法を自らの考えを持ち保育観をふくらませていく。			
15	科目の必須条件		近大レポート（2冊）・近大科目終末試験（指定問題8設問）該当科目です。クリアできるように取り組みましょう。試験（レポート作成）の成績90％　授業の積極的参加10％			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	教育（保育）方法とは何か？　5領域を知る			
		②	子ども理解を考える			
		③	環境における保育（教育）とは・・・①			
		④	あそびにおける保育とは・・・①			
		⑤	見える保育・見えない保育			
		⑥	事例より保育士の役割を考える（実践を通して）			
		⑦	プロジェクトアプローチとは？　　～レッジョエミリア実践から学ぶ～			
		⑧	あそびと学びに関係・教えることと学ぶこと			
		⑨	幼保小との連携			
		⑩	保育者の専門性と教育方法			
		⑪	科目終末試験対策			
		⑫	科目終末試験対策			
		⑬	科目終末試験対策			
		⑭	科目終末試験対策			
		⑮	科目終末試験対策			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教職概論
2	学科		こども保育科	6	科目番号	38
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	講義
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　　専門学校20年　短大非常勤講師20年以上			
11	教科書		教職入門ー未来の教師に向けて			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		教師生活を多面的に学び、教職の意義を明らかにします。教師と児童・生徒との関わり合い、教師の役割と 社会的責任、意識や文化及び教職の専門性などについて考えます。			
14	科目の到達目標		教職についての基本的理解と明確な自覚を得るための学びを深めます。			
15	科目の必須条件		自分自身が理想とする教師像をしっかりと考え、教育現場において求められる教師像について捉えつつ 本科目の学びが教育・保育現場において実践できる土台として今後に活かしていけるよう取り組みが大切となってきます。 出席点　　２０点（1回欠席ごとに－５点） 定期試験　８０点 その他　　提出物・授業参加状況など			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション 「私の理想の教師像」その１			
		②	教育とは何か			
		③	子どもとともに生きる教師の生活			
		④	日本における教師の歴史			
		⑤	現代社会の子どもたち			
		⑥	幼稚園・保育所の生活と遊び　その１			
		⑦	幼稚園・保育所の生活と遊び（実習）　その２			
		⑧	学校に関わりを持つ人々			
		⑨	カウントダウン・マインド			
		⑩	教師をめぐる新しい動き（国際化・情報化）			
		⑪	教師をめぐる法律・教育改革とこれからの教師　その１			
		⑫	教師をめぐる法律・教育改革とこれからの教師　その２			
		⑬	教職の専門性と研修			
		⑭	「私の理想の教師像」その２			
		⑮	まとめ			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育相談
2	学科		こども保育科	6	科目番号	39
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	須藤　史朗	9	授業形態	講義
		資格	精神保健福祉士		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	病院勤務（精神保健福祉士）１５年　放課後等デイサービス2年			
11	教科書		近大テキスト「教育相談」			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		・基礎的な心理学の理解 ・保育におけるソーシャルワーク、カウンセリング ・保育者の自己理解・自己覚知 ・子どもや保護者への相談対応			
14	科目の到達目標		近年、子どもや家庭を取り巻く環境が変化し、保育が行う業務についても、子どもの発達理解から保護者に相談対応など子育て支援の役割を期待されています。このような状況の中、保育士は子どもや保護者への関りでは、ソーシャルワークの視点や心理的理解を求められます。この授業を通して、保育ソーシャルワークやカウンセリングを学びます。			
15	科目の必須条件		事前にテキストを読んでおきましょう。授業はテキストを読んでいることを前提に行います。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション			
		②	よりよい子育て支援のために			
		③	子育て支援に活かすカウンセリングの理論			
		④	子育て支援に活かすカウンセリングの技法			
		⑤	日常の保護者との関わり方			
		⑥	養育困難をかかえる保護者への支援			
		⑦	障害のある子どもを持つ保護者への支援			
		⑧	精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応			
		⑨	親としての成長を支える			
		⑩	保育者として自分と向き合う			
		⑪	科目終末試験対策			
		⑫	科目終末試験対策			
		⑬	科目終末試験対策			
		⑭	科目終末試験対策			
		⑮	科目終末試験対策			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育・教職実践演習
2	学科		こども保育科	6	科目番号	40
3	授業時数		20時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	演習
		資格	幼稚園教諭免許1種 中学校教諭免許2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		保育・教職実践演習			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		・これまで学んできた幼稚園教諭・保育士についてを理解し求められる資質や能力を確認していく。 ・グループ討論や実際に自分たちが体験することから指導案の作成を考えたり実習の中で実際に活用できるように学習する。 ・自分の苦手領域など確認や克服もできるように工夫して取り組む。			
14	科目の到達目標		・自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する ・幼稚園教諭、保育士として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解する ・幼稚園教諭、保育士として持つべき基礎的な指導力を知り、実際に指導計画を立て実習で実践できるように積極的に参加する。			
15	科目の必須条件		・自分たちが楽しむこと、学ぼうとする気持ちを意識してください。 ・子どもの発達についてもしっかりと調べて理解していきましょう。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	・オリエンテーション　　・保育士、幼稚園教諭の立場でやってみたい遊び			
		②	・遊びのねらいを考える・指導案を考える			
		③	1グループ目保育実践　反省・考察			
		④	2グループ目保育実践　反省・考察			
		⑤	3グループ目保育実践　反省・考察			
		⑥	4グループ目保育実践　反省・考察			
		⑦	5グループ目保育実践　反省・考察			
		⑧	6グループ目保育実践　反省・考察			
		⑨	7グループ目保育実践　反省・考察			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	乳児保育Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	41
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	甲斐　國英	9	授業形態	講義
		資格	法学士　社会福祉士 介護支援専門員		所属	熊本乳児院
		実務経験	重度心身障害者入所施設　2年　　熊本乳児院　施設長30年以上 熊本学園大学非常勤講師15年以上			
11	教科書		はじめて学ぶ乳児保育　第四版			
12	関連資格・検定等		保育士資格　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		理論編（制度・歴史）　実践編（抱っこ・沐浴等）　アイデア編（遊びのアイデアと歌遊び等）			
14	科目の到達目標		乳児保育の重要性を「認定こども園」の理解と併せて、保育のスタートの重要性学びます。			
15	科目の必須条件		これからの保育におけるファミリー・ソーシャルワークに興味を持って授業に参加してください。 定期試験　80%　　出席状況　10%　授業態度　10%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	アイスブレーキング　なぜ乳児保育は必要か			
		②	施設見学（福祉）熊本市社会福祉協会　熊本乳児院			
		③	熊本授産場（社会事業授産）ワークショップ　熊本（就労支援B型）双葉保育園			
		④	乳児保育の現状とそれに関する制度の理解			
		⑤	乳児院とは。 こうのとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）検証			
		⑥	改正子育て支援法について（幼保無償化）			
		⑦	保育所保育指針について（乳児保育のポイント）			
		⑧	ポルトマンから学ぶ人生の基礎としての乳児期			
		⑨	乳児のからだ（体の発達と運動機能の発達）①			
		⑩	乳児のからだ（体の発達と運動機能の発達）②			
		⑪	乳児のからだ（体の発達と運動機能の発達）③			
		⑫	乳児のからだ（体の発達と運動機能の発達）④			
		⑬	乳児のからだ（体の発達と運動機能の発達）⑤			
		⑭	乳児のからだ（体の発達と運動機能の発達）⑥			
		⑮	総括・実習感想・試験対策			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	英会話Ⅰ（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	42
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	李　英	9	授業形態	講義・実演
		資格	中学校・高等学校教諭専修免許		所属	
		実務経験	ALT（外国語指導助手）7年、熊本YMCAグローバル事業部非常勤英語講師13年			
11	教科書		Happy English for Childcare			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		身の回りの出来事を題材にした英語表現を学び、それを基にインフォメーションギャップやグループワークで実際に話したり書いたりする練習を行っていく。また、英語を使ったゲームや歌等のアクティビティを行い、楽しく学んでいく。			
14	科目の到達目標		・簡単な自己紹介を自分で書く・話すことが出来る。 ・日常生活において使用される単語や表現を理解する。 ・基本的な英文法を理解し問題を解くことが出来る。			
15	科目の必須条件		授業始めに、簡単な口頭での自己紹介を紹介してもらいます。 授業への積極的態度（50%）　　授業内テスト（50%）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	1日目　Introducti+D14on			
		②	1日目　Familiy			
		③	1日目　Music　&　Games			
		④	1日目　Foods			
		⑤	1日目　Shopping　&　Consolidation			
		⑥	2日目　Introduction2			
		⑦	2日目　Hobbies			
		⑧	2日目　Music2			
		⑨	2日目　Writing			
		⑩	2日目　Test			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	生涯スポーツ（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	43
3	授業時数		30時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	錦井　浩樹	9	授業形態	実技
		資格	スポーツインストラクター		所属	体操教室
		実務経験	体操教室4年　スポーツ福祉熊本　4年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		各種スポーツ（バレーボール・バドミントンなど）の技能の向上を中核目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的,社会的背景についての理解を深めたい。さらに「生涯スポーツ」や「スポーツfor　ALL」の理念を推進していく上で課題を現代のスポーツ現象（勝利至上主義、商業主義）を批判的に検討する中で明らかにしていきたい。			
14	科目の到達目標		幼児期及び青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができます。子どもや障害者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得します。 子どもや障害者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができます。			
15	科目の必須条件		地域における様々なスポーツイベントに自主的に参加したり、子どもや障害者を対象としたスポーツ活動へのボランティアとして参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深めることとします。授業で体験した運動遊び、レクリエーションゲームを自分なりに工夫して発展させること。 毎日のまとめの感想文　　35%　実技中のグループワークへの取り組み　30パーセント まとめの課題レポート　35%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	1日目　オリエンテーション、アイスブレーキング			
		②	1日目　コミュニケーションゲーム			
		③	1日目ボールを使った遊び			
		④	1日目　バレーボール（試しのゲームとゲーム分析）			
		⑤	1日目　ルール作り①（発生当初のルールを参考に）			
		⑥	2日目　ルール作り②（ラリー回数を増やすために）			
		⑦	2日目　ルール作り③（三段攻撃を増やすために）			
		⑧	２日目　障害者を対象としたバレーゲーム			
		⑨	2日目　高齢者を対象としたバレーゲーム			
		⑩	２日目　レクレーションゲーム			
		⑪	３日目　バドミントン（試しのゲームとゲーム分析）			
		⑫	３日目　リーグ戦①（ルール理解を深めるために）			
		⑬	３日目　リーグ戦②（オーバーハンドスローの習得のために）			
		⑭	３日目　幼児期及び青年期以降におけるスポーツの意義			
		⑮	３日目　まとめの課題			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	情報処理入門Ⅰ（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	44
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		１年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	岩切　和子	9	授業形態	演習
		資格	MOS Word2003 Expert,MOS Excel2003 Expert,日商ワープロ検定2級		所属	
		実務経験	自治体主催パソコン講座非常勤講師、小学校総合学習パソコン担当非常勤講師、専門学校非常勤講師30年以上			
11	教科書		Wordマスター演習問題集 2019対応			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種　表計算検定試験			
13	科目の概　要		代表的なオフィススイートである　Word（ワープロ）・Excel（表計算）・PowerPoint（プレゼンテーション）の3つのソフトウェアの概念や利活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図ります			
14	科目の到達目標		現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場において、パソコンの利用スキルが求められる。 本業では特に利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を演習を通して習得することを目標とします			
15	科目の必須条件		受講前に、Windowsの基本操作（日本語入力、マウスやキーボードの操作、ファイルのコピー、移動）を一通り習得していることが望ましい。受講後は家庭や職場などのパソコンに積極的に触れ、パソコンによる文章作成の機会を増やすことを進めます			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	Wordの基本操作、文字入力、フォント設定			
		②	段落の設定、ページレイアウトの設定、印刷			
		③	画像（写真、クリップアート、ワードアート）の取り組みと編集			
		④	図形描画機能の利用			
		⑤	Word総合演習（チラシの作成）			
		⑥	Excelの基本操作、文字、セル、罫線の設定			
		⑦	計算式の入力、基礎的な関数、Excelの総合演習（家計簿の作成）			
		⑧	Power　Pointの基本操作、デザインの設定、スライドショーの利用			
		⑨	アニメーションの作成			
		⑩	Power　Point総合演習（電子紙芝居の作成）			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	幼児と音楽表現（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	45
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	上小園浩子　藤田みさと 渡辺　ゆみこ　隈部　文	9	授業形態	講義・演習
		資格	教員免許		所属	個人教室
		実務経験	ヤマハ音楽教室12年　高等学校講師7年　短期大学教職12年　専門学校22年　／　ピアノ教室27年　大学講師7年　専門学校19年　／音楽大学　幼稚園・保育園でのリトミック指導30年以上			
11	教科書		「音楽＜声楽教本＞」「音楽＜ピアノ教本＞」			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		声楽：ループレッスンの形態で行います。コールユーブンゲンでは音程とリズム、コンコーネでは歌唱表現を 重視し、子どもの歌も使用します。 ピアノ：個人レッスンの形態で行います。記録票のグレードに従い、学生の力量に合わせた指導を 行います。			
14	科目の到達目標		保育者として、子どもに歌い聴かせうるための声楽の基礎（発声法）を学ぶとともに、基本的な音楽理論を理解することを目標とします。また、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につけることを目標とします。			
15	科目の必須条件		声楽、ピアノともに練習あるのみです。短時間であれ、毎日続けていくことが上達のカギとなります。記録票の進度に合わせ、焦ることなく、丁寧に取り組んでください。特にピアノについては初見状態でのレッスンでは成立しないので、受講にあたり下記の条件を設けます。満たない場合は受講を認めない場合があります。 ・ピアノ記録票①の3段目まで（1番～25番、マーチ1～6）の個人レッスンを受けて、指導者の押印があること。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　ガイダンス　基礎練習			
		③	2限目　レッスン			
		④	3限目　声楽：コールユーブンゲン1～8			
		⑤	4限目　ピアノ：1番～25番、マーチ1～6　確認			
		⑥	5限目　　26番～31番、マーチ7・8			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　声楽：コールユーブンゲン9～15			
		⑨	2限目　　コンコーネ1・2			
		⑩	3限目　ピアノ：32番～36番、マーチ9・10			
		⑪	4限目　試験課題発表　レッスン			
		⑫	5限目　実技試験			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	音楽表現技術（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	46
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	上小園浩子　藤田みさと 渡辺　ゆみこ　隈部　文	9	授業形態	講義
		資格	教員免許		所属	
		実務経験	ヤマハ音楽教室12年　高等学校講師7年　短期大学教職12年　専門学校22年　／　ピアノ教室27年　　／　大学講師7年　専門学校19年　/音楽大学　幼稚園・保育園でのリトミック指導30年以上			
11	教科書		「音楽＜声楽教本＞」「音楽＜ピアノ教本＞」			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		声楽：グループレッスンの形態で行います。コールリューブンゲンでは音程とリズム、コンコーネでは歌唱表現を重視し、子どもの歌も使用します。 ピアノ：個人レッスンの形態で行います。記録票のグレードに従い、学生の力量に合わせた指導を行います。			
14	科目の到達目標		保育者として、子どもに歌い聴かせうるための声楽の基礎（発声法）を学ぶとともに、基本的な音楽理論を理解することを目標とします。また、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につけることを目標とします。			
15	科目の必須条件		声楽、ピアノともに練習あるのみです。短時間であれ、毎日続けていくことが上達のカギとなります。記録票の進度に合わせ、焦ることなく、丁寧に取り組んでください。特にピアノについては初見状態でのレッスンでは成立しないので、 受講にあたり下記の条件を設けます。満たない場合は受講を認めない場合があります。 ・ピアノ記録票全ての個人レッスンを受けて、指導者の押印があること。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　ガイダンス　基礎練習			
		③	2限目　レッスン			
		④	3限目　声楽：記録票②			
		⑤	4限目　ピアノ：記録票②			
		⑥	5限目　　※力量により進度は異なる			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　声楽：記録票③　子ども歌			
		⑨	2限目　ピアノ：記録票③			
		⑩	3限目　　※力量により進度は異なる			
		⑪	4限目　試験課題発表　レッスン			
		⑫	5限目　実技試験			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	幼児と造形表現（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	47
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	松下　七美	9	授業形態	講義
		資格	高等学校教諭一種「美術」 中学校教諭一種「美術」		所属	湧心館高校全日制 熊本県美術家連盟会員
		実務経験	高等学校「美術」10年以上　専門学校での「造形表現」5年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		実技課題として、デカルコマニーによる見立て遊び、マーブリングによる絵具遊びからそれを素材にしたコラージュ制作、課題製作後、鑑賞を行い、製作記録、感想文を記述していきます。 幼児画の発達過程と特徴の理解を深め、幼児期の発達に適した創造活動の援助について考察していきます。			
14	科目の到達目標		様々な素材や表現方法等を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組むことで、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性をハグ組、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の修得を目指す。			
15	科目の必須条件		自分が使用する材料、道具の準備をきちんと行う。 制作した作品は大切に保管し、製作工程、感想を記録する。 課題作品・感想文　　70%　材料、道具、授業準備、積極的参加　30%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	見立て遊びのための「デカルコマニー制作」 材料：画用紙　絵具			
		②	マーブリング　（材料：画用紙、彩液）			
		③	マーブリング　紙制作（コラージュ材料）			
		④	デカルコマニー見立て遊び「偶然生まれた形から想像デッサン」			
		⑤	デカルコマニー見立て遊び「仕上げ・作品鑑賞・感想文・制作の記録」			
		⑥	講義　幼児画の発達過程「子どもの絵と造形、表現発達について」			
		⑦	講義　幼児画の特徴「子どもの絵についての感想文」			
		⑧	マーブリングコラージュ制作「テーマ設定」（材料：画用紙、マーブリング紙）			
		⑨	マーブリングコラージュ制作「貼り絵作業」			
		⑩	マーブリングコラージュ制作「仕上げ・作品鑑賞・感想文・制作の記録」			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育心理学（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	48
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	中満　弓子	9	授業形態	講義
		資格	教育学士・ MASTER of SCIENCE		所属	
		実務経験	県精神保健福祉相談業務（非常勤）10年以上 障害者地域生活支援業務（非常勤）10年以上 スクールカウンセラー（非常勤）10年以上			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		教育心理学の内容に関する講義を行った上で、実際の保育現場ではどのように心理学の知見を見立てて いけばよいのかについて、演習やグループ討議を通じて理解を深めます。また不登校や虐待などを含む 今日の子どもをめぐる問題についてもとりあげ、保育現場において援助者がこうした問題にどう取り組んで			
14	科目の到達目標		本講義では、心理学の知識を学ぶことを通じ、保育において心理学の視点を活かせるようになることを目的とする。 人はどのように学習していくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学び、また心理学における様々な 研究から得られた知見を学ぶことで、実際の保育の中で工夫や援助ができるようになることを目指します。			
15	科目の必須条件		あらかじめテキストに目を通しておくこと。実際に保育に中でどのように心理学の知見を活用できるのかを考え、レポート作成やグループ討議を行います。 ・授業への積極的参加（発言や演習、グループ討議への参加を含みます）　40% ・授業日程ごとに課すレポート課題評価　　60%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　教育心理学とは			
		③	2限目　学習行動の基礎			
		④	3限目　やる気（動機づけ）について			
		⑤	4限目　ことばの発達について			
		⑥	5限目　知的能力の発達について			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　パーソナリティの発達			
		⑨	2限目　教育・保育における評価			
		⑩	3限目　発達障害のある子どもの教育・保育			
		⑪	4限目　子どもをめぐる教育的問題			
		⑫	5限目　教育心理学を保育に活かす			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書		教育心理学を愉しむ			

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	健康（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	49
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	錦井　浩樹	9	授業形態	実技
		資格	中学校保健体育一種免許 高等学校保健体育第二種免許取得		所属	体操教室
		実務経験	体育クラブ３年　スポーツ福祉３年　高等学校１２年　体操教室12年			
11	教科書		「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中枢的な保育内容となる「運動遊び」と「基本的生活習慣」の関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していきます。 教育学、保育学、心理学の諸領域による知見を理解することに加え、新聞やインターネットなど情報から現代的な課題をを探求することによって実践的な課題を再確認していきます。			
14	科目の到達目標		・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解します。 ・「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動遊びの指導・援助、②基本的生活習慣の形成およびその援助、　③健康、安全に関する保育活動）および方法を実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を探究します。			
15	科目の必須条件		・授業内に該当する「教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針解説書」の部分をあらかじめ　読んでおきましょう。　・子ども、幼児、健康、子育て、からだ、スポーツ、体育などをキーワードとした新聞やインターネットの情報について日常的に興味・関心を持つようにしましょう。 授業中に提示する課題レポート　４０％　　まとめの課題レポート　６０％			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　健康の概念、教育要領、保育所保育指針における「健康」領域			
		③	2限目　乳児の運動発達①反射的運動の段階			
		④	3限目　乳児の運動発達②初歩的運動の段階			
		⑤	4限目　幼児の運動発達①基本的運動の段階			
		⑥	5限目　運動遊びの指導計画の作成と指導法			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　事故防止と安全対策			
		⑨	2限目　食事に関する保育内容と指導法			
		⑩	3限目　排泄に関する保育内容と指導法			
		⑪	4限目　生活リズム(睡眠・休養)に関する保育内容と指導法			
		⑫	5限目　まとめの課題			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	人間関係（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	50
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	井上　順子	9	授業形態	講義
		資格	中学・高等学校教諭Ｉ種 親行インストラクター 初級産業カウンセラー		所属	
		実務経験	高校教諭10年　中学校心の教室相談員5年			
11	教科書		資料配布			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習います。また、子どもが、単に集団にうまく適応することのみを問題にするものではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験するっことの意義を学びます。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習します。			
14	科目の到達目標		・領域「人間関係」に関する教育・保育内容及び指導に関する知識・技術を習得します。 ・子ども発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深めます。			
15	科目の必須条件		・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」を熟読しましょう。 ・授業中、指示された課題をまとめて、提出してください。 ・授業への積極的参加（発表等）　30% ・試験　70%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　領域「人間関係」の視点			
		③	2限目　領域「人間関係」のねらいと内容と何か			
		④	3限目　自己の形成と他者理解			
		⑤	4限目　集団における自己の発達			
		⑥	5限目　社会性の発達と遊び			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　協力・競争・排除			
		⑨	2限目　思いやりと道徳性の芽生えと集団生活に必要な規範			
		⑩	3限目　子どものコミュニケーション			
		⑪	4限目　保育者の役割と指導について			
		⑫	5限目　まとめ			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書		教育心理学を愉しむ			

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	幼児と健康（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	51
3	履修単位		15時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	錦井　浩樹	9	授業形態	講義
		資格	中学校保健体育一種免許 高等学校保健体育第二種免許取得		所属	
		実務経験	体育クラブ3年　スポーツ福祉3年　高等学校12年　体操教室12年			
11	教科書		なし			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		幼児期の運動遊びを追体験することを通して、保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やすことと、バリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動遊びの指導に必要な保育者技術についても検討します。また、運動指導の系統性に関する理論学習や保育実践記録の分析によって就学前体育の実践課題についても検討します。			
14	科目の到達目標		・「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動遊びのもつ教育的意義について説明できるようになります。 ・各種の運動遊びを素材とした短期の指導計画を作成することができるようになります。 ・運動遊びの「ねらい」を表現するために必要な効果的な指導技術を習得します。			
15	科目の必須条件		・「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」の「第2章　子どもの発達」を熟読し、それぞれの段階の発達の特徴について理解を深めましょう。 ・子育て支援に関するボランティア活動に積極的に参加し観察や実際に幼児と触れ合ったりすることによって、運動、言語、ルール認識の発達段階について理解を深めましょう。 ・教育・保育実習で運動遊びを素材とした部分実習に取り組みましょう。 ・実技中のグループワークへの取り組み　30% ・乳児期における運動遊びの意義についての記述レポートレポート　35% ・年長児を対象としたとした運動遊びの指導計画（遊びの説明・指導上の留意点）の作成　35%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　オリエンテーション、アイスブレーキングゲーム			
		③	2限目　コミュニケーションゲーム、長縄を使った運動遊び			
		④	3限目　パラバルーンを使った運動遊び			
		⑤	4限目　ボールを使った運動遊び			
		⑥	5限目　短縄を使った運動遊び			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　フープを使った運動遊び			
		⑨	2限目　新聞紙を使った運動遊び			
		⑩	3限目　鬼ごっこ遊び（集団づくりの実践記録の分析）			
		⑪	4限目　反射的運動の段階、初歩的運動の段階における指導・援助について			
		⑫	5限目　基本的運動の段階における指導・援助について、まとめ			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書		「保育所保育指針解説書」「幼児期　運動遊び運動遊びの進め方」「0～5歳児のたのしい運動遊び」			

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	造形表現（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	52
3	履修単位		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	松下　七美	9	授業形態	講義
		資格	中学、高等学校教員免許		所属	湧心館高校全日制 熊本県美術家連盟会員
		実務経験	高等学校「美術」10年以上　専門学校での「造形表現」8年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		造形の基礎となる、平面（デッサン・色彩）、立体（動くおもちゃ・粘土）の作品制作を通して幼児の造形活動への理解を深めます。デッサン・色彩・粘土による課題では造形基礎を学び、保育の現場で使える課題として身近な素材を使った玩具作りを行い、作品制作後、発表、制作記録、感想文を記述します。			
14	科目の到達目標		・作品制作を通じて創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく、感性豊かに」学び、幼児養育における造形表現の基礎知識を習得します。 ・保育者として子どもを援助し他の生活領域や表現分野との関わりに気を配りながら、造形活動を通して感動を伝えあう喜びを大切にできるよう、造形表現基礎から素材の応用まで体験し、実践課題として展開できる能力の習得を目指します。			
15	科目の必須条件		・自分が使用する材料、道具の準備はきちんと行いましょう。 ※指定している持参材料・道具は、指定されたものを必ず持参しましょう。 ・授業で制作した作品は、実習や保育現場での参考になるため、作品を大切に保管し、制作方法、感想や 作品写真で記録しましょう。 課題作品・感想分　70%　　材料、道具、授業準備・積極的参加　30%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　人物デッサン導入「観察」　（材料：鉛筆・練り消し・四つ折り画用紙）			
		③	2限目　人物デッサン「描き込み」全体から細部へ			
		④	3限目　人物デッサン「仕上げ」			
		⑤	4限目　「色彩の基礎学習」色彩演習　暖色・寒色・彩度・明度・色相について			
		⑥	5限目　人物デッサンに着彩「色彩の応用」　感想文・全体鑑賞			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　塑造①（粘土による立体造形）「人物のレリーフ制作」			
		⑨	2限目　塑造②（粘土による立体造形）「手の制作」肘から上を作ろう			
		⑩	3限目　動くおもちゃ（身近な素材を使って楽しい造形）オリジナル玩具制作「構造」			
		⑪	4限目　動くおもちゃ「オリジナル玩具・装飾・仕上げ」			
		⑫	5限目　動くおもちゃ「オリジナル制作、オリジナル玩具作品を使った発表表現」			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書		「絵画遊び技法百科」「保育の中の造形表現」「新造形表現　理論・実践編（幼児教育講座）」			

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	音楽表現（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	53
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	隈部　文	9	授業形態	講義
		資格	芸術学士（音楽） 中学校音楽免許1種・高等学校音楽免許2種		所属	個人教室
		実務経験	大学教員7年 大学非常勤講師9年 専門学校講師17年			
11	教科書		講師作成の資料			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		音・音楽による表現を主として、様々な角度から音楽表現について考えます。様々な音楽あそびを年齢に応じて展開し、あそび歌・絵描き歌・オリジナル音楽劇の創作・発表を行います。受講生同士が協力しながら創作し、全ての遊びを全員で体験します。授業の最後に、各自で作ったあそび歌の発表会を行います。			
14	科目の到達目標		領域「表現」に関する「ねらい」「内容」を理解し、幼児教育における音楽表現の基礎知識を習得する。保育活動における音楽の役割を理解し、子どもの音楽表現活動（乳幼児期の音楽表現活動、就学前の子どもを対象にした音楽あそび、小学校音楽科の授業につながる音楽活動）に関する基礎的知識及び指導・援助に関する知識・技能を習得する。			
15	科目の必須条件		事前学習：「音楽ピアノ教本」に記載の「子どもの歌」について、一通り目を通し、歌ってきて下さい。（各曲一番のみで結構です）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	子どもの歌に触れよう			
		②	音を描こう			
		③	ボールを使った音楽あそび、楽器を使った音楽あそび			
		④	様々な音楽あそび　～絵本の読み聞かせと関連付けて～			
		⑤	音楽あそびを展開しよう			
		⑥	あそび歌を創ろう			
		⑦	劇あそびと音楽①　～オリジナルの音楽劇を創ろう～			
		⑧	劇あそびと音楽②　～オリジナルの音楽劇の練習～			
		⑨	劇あそびと音楽③　～オリジナルの音楽劇を上演・観劇～			
		⑩	音楽発表会　～自作のあそび歌を発表しよう～			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	環境（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	54
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	初瀬　基樹	9	授業形態	講義・実演
		資格	保育士 幼稚園教諭一種免許状		所属	幼保連携型認定こども園 からたちこどもえん園長
		実務経験	社会福祉法人　恵満生福祉会　からたちこどもえん（旧　河内からたち保育園）で20年以上			
11	教科書		保育内容環境　あなたならどうしますか？第2版、保育所保育指針、幼稚園教育要領			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察します。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施します。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養います。			
14	科目の到達目標		子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することが出来る。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然との関わりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することが出来る。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることが出来る。			
15	科目の必須条件		幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境）の部分を読み込んでおくこと。 図書室やインターネットで関連文献に目を通すこと。普段の生活の中で目にする自然に目を向け、観察する習慣をつけること。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境）の解説			
		②	子どもの周辺の環境（家庭、地域、社会、自然）の変化と実態、保育者の役割の説明			
		③	身近な自然にかかわる保育の理論的解説			
		④	科学あそび（実践的保育演習）：シャボン玉あそび（水）			
		⑤	動物園実習事前指導：生き物とかかわる保育の理論的解説と実習内容の説明			
		⑥	サル山での行動観察（雄、雌、仔を区別）を通して観察力を身につける			
		⑦	いろいろな動物をスケッチすることで観察力を身につける（詳細な部分の観察）			
		⑧	幼児教育における動物園の役割および保育者が考慮しておくべき事柄の解説			
		⑨	動物園への引率を想定した「見せたい動物８」の発表（グループ発表）			
		⑩	動物園でのネイチャーゲーム（ビンゴ形式）：様々な場所・事象に目を向ける			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	言葉（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	55
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	井上　和美	9	授業形態	講義　・　実践
		資格	保育士・幼稚園教諭		所属	（学）熊本YMCA学園 YMCA熊本五福幼稚園
		実務経験	保育士3年　　幼稚園園長13年			
11	教科書		『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必修科目です。『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標）「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとのかかわり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指します。講義形式・グループワークを実施する。			
14	科目の到達目標		人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとのかかわり方を身につけ実践できる 保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる			
15	科目の必須条件		事前に『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』保育内容・「言葉」の箇所に目を通しておくこと。 事後学習としては、授業の復習をすることはもちろん、授業内で提示する参考文献等で理解を深めてほしい。 レポート：90％ 授業への参加・発言など：10％			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	人間にとって言葉とは何か			
		②	言語獲得の諸理論ー生得説／環境説・養育放棄事例におけるこどもの言語獲得			
		③	保育内容・言葉を理解する視点としてのコミュニケーション			
		④	保育内容・言葉「ねらい」の理解ー「目標」「内容」との関連を通して			
		⑤	応答的／積極的関わり・言葉以前のコミュニケーションー「内容」の理解①			
		⑥	言葉を通した楽しい関わりー「内容」の理解②			
		⑦	基本的信頼関係の構築ー「内容」の理解③			
		⑧	こどもの言葉を引き出す保育者の関わりー「内容」の理解④			
		⑨	物語と子どもの表現力・文字への気づきー「内容）の理解⑤			
		⑩	子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	社会的養護Ⅱ（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	56
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	坂田　正輝	9	授業形態	講義
		資格	小学校教諭 CSP幼児版トレーナー		所属	自立援助ホームつばめ
		実務経験	児童養護施設20年以上			
11	教科書		新・基本保育シリーズ6　社会的養護Ⅰ			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		5つの目標に沿って、児童の権利擁護や保育士などの倫理について、施設養護、他の養護の実際について、支援計画の作成、日常生活支援、治療的支援、自立支援などの内容、ソーシャルワークの方法と技術について理解、社会的養護ととおして、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めます			
14	科目の到達目標		テキスト、プリント時には映像を通して、子どもたちの置かれている現状について知る。そこで感じた事柄をどう自分の中に落として混んでいくのかを考えていく必要がある。子どもたちが何を求めているのか、施設ではどういった人材を求めているのかを知ることによって、子どもたちに何が必要なのかが見えてくる。自分で気が付き、理解し考え、行動に移していけるようになることをのぞみます。			
15	科目の必須条件		音楽は歌に始まり歌に終わるといいます。声の出し方（発生）学ぶことによって、保育に必要な演奏技術の向上を、目指します。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション　社会的「養護」＝心身の土台作り　社会的＝国及び地方公共団体の責任			
		②	発達障害についての基礎的知識　発達障害、福祉型障害児施設における支援　具体的支援の作成			
		③	児童相談所に向けて、スーツでの登校			
		④	児童相談所見学			
		⑤	児童相談所見学　（レポート提出して初めての出席、未提出者がいた場合は欠席3コマ、単位取れない）			
		⑥	児童福祉施設について(就職対策と併用）			
		⑦	児童の施設利用開始時の支援について学ぶ			
		⑧	里親制度と里親ファミリーホーム　里親養育の現状と問題点、里親養育の現状について学ぶ			
		⑨	パーマネンシープランニング・コモンセンスペアレンティングについて			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	障害児保育（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	57
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	福原　真理子	9	授業形態	講義
		資格	保育士・幼稚園教諭2種・社会福祉主事任用資格・社会福祉士・精神保健福祉士		所属	株式会社　和剛
		実務経験	保育園6年　児童発達支援センター　3年 児童相談所1年 障がい者グループホーム統括管理者　サービス管理責任者 スクールソーシャルワーカー			
11	教科書		よくわかる障害児保育　第2版			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		障害児保育の歴史と理念について、学び、各障がいについての理解を深めていきます。 さらに保育現場でそれぞれの生涯を抱えた子どもや子どもの保護者をどのように支援していく必要があるかを考えていきます。講義だけではなく、演習を通じて、学生が体験的に学べる機会を提供したいと思います。			
14	科目の到達目標		障がい児保育の対象となる障がいの特徴について理解します。 障害児保育の実際や保護者への支援に関する基礎的な知識を習得します。 小学校への移行や他機関との連携などに関する基礎的な知識を習得します。			
15	科目の必須条件		テキストを熟読しておくこと。また各自特別支援教育や障害児保育に関連する書籍を積極的に読み込み、保育者として「自分ならどうかかわるか」「自分ならどのように支援するか」を考えておきましょう			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	障害児保育の歴史と理念			
		②	乳幼児期の発達的問題			
		③	知的遅れのある子どもの保育			
		④	体の不自由な子どもの保育			
		⑤	自閉症スペクトラム障害の理解と保育現場における支援			
		⑥	ADHDの理解と保育現場における支援			
		⑦	視覚障害・聴覚障害の理解と支援			
		⑧	就学に向けて			
		⑨	保護者への支援			
		⑩	障害児保育の実践			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子どもの食と栄養（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	58
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	秋吉　澄子	9	授業形態	講義・実技
		資格	管理栄養士		所属	慈恵病院
		実務経験	病院・企業　管理栄養士6年			
11	教科書		「子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養」（第１１版）			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指します。			
14	科目の到達目標		小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解しましょう。			
15	科目の必須条件		テキストには必ず、目を通し、参考文献も何冊か読んでおきましょう。 実習で学習した内容の定着を図るための事後学習を行いましょう 実習態度点（２０％）、実習レポート（４０％）、課題手ポート（４０％）で評価する。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	乳児期の授乳栄養について			
		②	調乳実習			
		③	離乳栄養について			
		④	離乳食実習			
		⑤	離乳食実習			
		⑥	幼児期の栄養について			
		⑦	幼児食実習（弁当・だしの取り方）			
		⑧	幼児食実習（弁当・だしの取り方）			
		⑨	小児期の食生活について（間食・食育・アレルギー対応）			
		⑩	間食、手洗いに関する実験			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子育て支援（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	59
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	百合本　佳乃	9	授業形態	講義
		資格	保育士・幼稚園教諭2種免許・心理カウンセラー		所属	
		実務経験	幼稚園教諭・保育士経験（学童含む）15年以上、子育て講師・子育て相談・子育て塾5年			
11	教科書		資料配布			
12	関連資格・検定等		保育士資格　　幼稚園教諭2種免許			
13	科目の概　要		この授業ではDVDや資料を基に授業をしていきます。①「事例」を通して社会福祉援助活動（社会福祉援助技術）の実際と、②「社会福祉」と「相談援助」を学んでいく過程で理解できないことを、Q＆A方式で説明していきます。			
14	科目の到達目標		将来において保育士を目指す学生にとって必要とされる相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助課程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につけることを目標とします。			
15	科目の必須条件		事後学習として、テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深めましょう。 科目終末試験　50%　　レポート課題　30%　　授業への積極的参加　20%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	＜1日目＞			
		②	1限目　社合福祉援助技術の概念・目的			
		③	2限目　社会福祉援助技術とは何か、価値・理念とすること			
		④	3限目　ケースワークの目的・過程と展開			
		⑤	4限目　グループワークの概念と目的・過程と展開			
		⑥	5限目　コミュニティワークの概念と目的・過程と展開			
		⑦	＜2日目＞			
		⑧	1限目　関係機関・専門職等との連携・協力・協同			
		⑨	2限目　社会資源の活用・利用方法			
		⑩	3限目　社会福祉援助技術技術　子育て支援			
		⑪	4限目　社会福祉援助技術技術　　子育て支援			
		⑫	5限目　授業内容の振り返り			
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書		「四訂社会福祉の理論と実際」「相談援助の理論と方法①」「相談援助と理論と方法②」 「コメディカルのための社会福祉概論（第5版）」「21世紀の現代社会福祉用語辞典」			

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	劇遊び（指導法）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	60
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	講義
		資格	幼稚園教諭1種 中学校教諭2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		表現Ⅰ　感性と表現			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		①基本ステップ、リトミック、リズムダンス、模倣表現　②わらべ歌あそび　③自由表現「自然現象、生活事象、抽象事象）④発表、鑑賞　以上の動きのリズムを中心とした活動を展開します。			
14	科目の到達目標		子どものもつ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導法、援助法を体得することを目標とします。自分の身体を確認し、身体運動による表現の特性を知り、イメージと動きのかかわりを体得し、創造性を豊かにすることを目標とします。			
15	科目の必須条件		近大レポート（2冊）・近大科目終末試験（指定問題8設問）該当科目です。クリアできるように取り組みましょう。 出席　10％（欠席1回ごとに－5点）　授業態度　10％　レポートなど提出物　20％ 定期試験　60％ 私語は厳禁。保育者として必要な知識のため、真面目に取り組んでほしいです。 教科書の項目を重点に置きながら、配布プリントで最新情報を確認していきます			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	ガイダンス			
		②	基本ステップ　身体の各部位を使用しての動き			
		③	幼児体操「リズム体操、手具体操、組体操」			
		④	舞踏育成法に依る基本的動きのパターン			
		⑤	リズムダンス			
		⑥	模倣表現　動きのスケッチ			
		⑦	表現遊び　わらべ歌あそび			
		⑧	自由表現（自然現象、生活事象、抽象表現）			
		⑨	まとめ			
		⑩	発表、鑑賞			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育実習事前・事後指導 （スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	61
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	講義
		資格	幼稚園教諭1種 中学校教諭2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		教育実習事前事後指導			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習にかかわった基礎的な知識の理解を深めていく。①幼児期の発達段階、②幼稚園の機能と役割、③幼稚園教諭の職務と役割、④観察字Tぅ集の作成方法、⑤指導計画の立案方法			
14	科目の到達目標		教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。 観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。 「事後」のまとめにかかわった考察の視点を理解する。			
15	科目の必須条件		子ども・子育て支援制度等、幼児教育や子育てにかかわった現代的な課題を新聞などの情報によって確認し、把握しておくこと。実習で使用する手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておくことを望みます。ボランティアに積極的に参加することを条件とします。 授業中に提示する課題レポート（40%） まとめの課題レポート（60%）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	本学の教員養成の目標と教育課程、教育実習の意義			
		②	幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教育を取り巻く状況			
		③	幼稚園教員の職務と役割			
		④	幼児期の発達課題と生活課題、過程との連携			
		⑤	実習園選定に向けた情報収集の方法			
		⑥	観察、参加実習における記録の作成の意義と方法			
		⑦	指導計画の作成の方法①（朝の会、食事指導の指導計画）			
		⑧	指導計画の作成の方法②「中心となる活動」の指導計画）			
		⑨	教育実習に向けた準備			
		⑩	まとめの課題			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育内容総論（スクーリング）
2	学科		子ど保育科	6	科目番号	62
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　紫舞	9	授業形態	講義
		資格	保育士		所属	社会福祉法人　湧水会 さくらんぼ保育園
		実務経験	保育園　20年以上			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		「保育所保育指針解説書」を中心に、保育をめぐる基礎知識を取得し、基本原理を理解することを目指していきましょう。同時に基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式のほか、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培います。			
14	科目の到達目標		保育内容の史的展開を踏まえ保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について、説明できます 保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できます 保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができます。			
15	科目の必須条件		「保育所保育指針解説書」第1章「総則」に目を通しておきましょう。 保育所保育の全体的構造を他の教科名と関連付ける意識を忘れないでほしいです。授業内で提示する参考文献などで理解を深めてほしい。 1日目レポート45% 2日目レポート45%　授業への参加、発言など10%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	日本におけるこども・子育てをめぐる現状と課題―保育の基礎知識①			
		②	幼稚園・保育所の設立と保育方法の史的展開―保育の基礎知識②			
		③	保育所保育の目的・役割ー保育の基本原理①			
		④	保育内容「ねらい」「内容」の意味ー保育内容の理解①			
		⑤	保育の総合性とは何かー保育内容の理解②			
		⑥	指導計画立案の考え方、書き方の基本			
		⑦	子どもの発達過程に応じた保育			
		⑧	遊びと保育			
		⑨	子どもの最善の利益とはー保育所保育をめぐる論点と議論			
		⑩	小学校との設読・共生の保育			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育実習Ⅰ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	63
3	授業時数		90時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	実習
		資格	幼稚園教諭1種 中学校教諭2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		教育実習事前事後指導			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		専門教育科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた、総合的に高めていくことを目標とします。この目標を達成するために第一回（2週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに、第2回（2週間）の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととします。			
14	科目の到達目標		幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解します 幼稚園教諭の職務及び役割について、体験を通して理解します 幼稚園での1日の教育実習を振り返り、観察記録を作成することができます。 部分実習、または、全日実習の指導計画を立案することができます。			
15	科目の必須条件		実習で利用する手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておきましょう。 配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成します。 実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成しましょう。 実習日誌の記述内容（50%）①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容 指導計画の記述内容（30%）①朝の会、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間で行える活動、昼食指導、帰りの会の部分実習　②午前の主な活動、午後の主な活動 実習園による評価（20%）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することを務める			
		1日目	①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・生活内容の概要			
		2日目	②遊び・生活場面での園児の行動			
		3日目	③園児の行動に対する幼児教育の対応			
		4日目	参加実習では、指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する。			
		5日目	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら以下のような			
		6日目	学習を獲得していく			
		7日目	①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導			
		8日目	②幼稚園教諭としての保育技能の習得および態度の養成			
		9～１２日目	③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	教育実習Ⅱ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	64
3	授業時数		90時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	実習
		資格	幼稚園教諭1種 中学校教諭2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		教育実習事前事後指導			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		専門教育科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた、総合的に高めていくことを目標とします。この目標を達成するために第一回（2週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに、第2回（2週間）の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととします。			
14	科目の到達目標		幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解します 幼稚園教諭の職務及び役割について、体験を通して理解します 幼稚園での1日の教育実習を振り返り、観察記録を作成することができます。 部分実習、または、全日実習の指導計画を立案することができます。			
15	科目の必須条件		実習で利用する手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておきましょう。 配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成します。 実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成しましょう。 実習日誌の記述内容（50%）①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容 指導計画の記述内容（30%）①朝の会、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間で行える活動、昼食指導、帰りの会の部分実習　②午前の主な活動、午後の主な活動 実習園による評価（20%）			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することを務める			
		1日目	①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・生活内容の概要			
		2日目	②遊び・生活場面での園児の行動			
		3日目	③園児の行動に対する幼児教育の対応			
		4日目	参加実習では、指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する。			
		5日目	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら以下のような			
		6日目	学習を獲得していく			
		7日目	①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導			
		8日目	②幼稚園教諭としての保育技能の習得および態度の養成			
		9～１２日目	③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育・教職実践演習（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	65
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	西本　愛	9	授業形態	講義・演習
		資格	幼稚園教諭1種 中学校教諭2種（音楽）		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	専門学校教員14年　幼稚園副園長8年			
11	教科書		資料を配布する			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		・これまで学んできた幼稚園教諭・保育士について理解し、求められる資質や能力を確認していく。 ・グループ討論や実際に自分たちが体験することから指導案の作成を考えたり実習の中で実際に活用できるように学習する。 ・自分の苦手領域などの確認や克服も出来るように工夫して取り組む。			
14	科目の到達目標		・幼稚園教諭、保育士として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解する ・幼稚園教諭、保育士として持つべき基礎的な指導力を知り、実際に指導計画を立て実習で実践できるように積極的に参加する。			
15	科目の必須条件		・自分たちが楽しむこと、学ぼうとする気持ちを意識してください。 ・子どもの発達についてもしっかりと調べて理解していきましょう。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	保育者としての自己分析			
		②	保育者としての社会的使命と役割			
		③	保育者としての教育的愛情			
		④	保育・教育職の意義と職務内容			
		⑤	家庭・地域社会との連携			
		⑥	子ども・保護者との信頼関係の構築			
		⑦	保育者に必要なコミュニケーション能力：ロールプレイ（保護者への対応）①			
		⑧	保育者に必要なコミュニケーション能力：ロールプレイ（保護者への対応）②			
		⑨	ロールプレイングの反省会・討論・発表			
		⑩	まとめ　　あそびの実体験			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	乳児保育Ⅱ（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	66
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	山並　さやか	9	授業形態	講義
		資格	保育士・幼稚園教諭2種		所属	やまなみこども園
		実務経験	保育園　26年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		講義やDVDで乳児保育の歴史や役割、乳児期の発達や子育て支援などの基礎的知識を学びます グループ演習で、乳児期の子どもへの対応や、保護者への支援等、保育者としての基本姿勢を学びます。			
14	科目の到達目標		乳児保育の理念と歴史的変遷や乳児保育の役割を学びます。 乳児期の子どもの発達について学び、その生活や遊びについて理解します。 乳児の沐浴や着替え、排泄の対応について学びます。 保護者と保育者、関係機関などの望ましい連携について考えます			
15	科目の必須条件		実習での乳幼児の世話を通して困ったことやわからなかったことなど感じたことを整理しておきましょう。 授業後、実習での疑問や課題の解決を整理します。 試験（レポート作成）の成績70％　授業の積極的参加30％			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①	乳児保育とは何か、乳児保育の重要性			
		②	乳児保育の基本ととの歴史的変遷			
		③	乳児保育における基本的知識と援助			
		④	乳児期の発達			
		⑤	グループ演習：3歳未満児の発達と保育内容			
		⑥	ことばの発達と保育者の対応			
		⑦	グループ演習：現代の母親と子育て			
		⑧	保育者と保護者との連携と子育て支援			
		⑨	発達の遅れと向き合う			
		⑩	沐浴人形を使用しての実践			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	子どもの健康と安全 （スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	67
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	右田　量子	9	授業形態	講義
		資格	助産師、看護師		所属	マタニティハウス(有)
		実務経験	病院勤務（産婦人科）9年　マタニティハウス32年			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		子どもを取り巻く環境は時代と共に大きく変化し、課題も様々です。子どもが心身ともに健全に発育するために大人はどうあればよいか考えていきたいと思います。			
14	科目の到達目標		子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明ができる 子どもの心身の正常な発育及び、発達段階の各期の特徴を述べることができる。 子どもの保健行政について述べることができる。			
15	科目の必須条件		日頃から新聞やインターネットなどで子どもの健康に関する情報を収集しておいてください。			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	出欠、オリエンテーション　子どものための小児保健　　手足口病　子どもの病気の特徴			
		②	出生前から原因を抱えている疾患　ヘルパンギーナ			
		③	重要な感染症　麻疹			
		④	実習の感想や困ったことなどを聞く。実習先での感染症について。実習生の自己管理力について			
		⑤	プール熱　溶連菌感染症			
		⑥	アレルギー性疾患・気管支喘息			
		⑦	アトピー性皮膚炎			
		⑧	嘔吐が主症状の病気　腸重積　胃食道逆流現象　肥厚性幽内狭窄症			
		⑨	熱中症の初期症状・対処法			
		⑩	ヒルシュスプリング病　症状　治療ケア　水いぼ（伝染性何属腫症状）			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	68
3	授業時数		90時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	実習
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　専門学校教員20年以上			
11	教科書					
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		「保育実習」は保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ　②子どもへの理解を深める　③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める			
14	科目の到達目標		・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することが出来る。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。			
15	科目の必須条件		・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする。 ・各自の実習のねらい、課題を明確にする。 ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする。 ①実習日誌・事後レポートなどの提出物50%　②実習園の評価30%　③勤務状況等20%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	実習計画	1～3日目	保育所の内容、機能について理解する。（保育所の1日の流れやプログラムの理解など）			
		4～6日目	保育所における子どもの理解（年齢（月齢）ごとの子どもの発達やその特徴など）			
		7～8日目	保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。			
		9日目～	日誌や指導案の書き方を学ぶ。			
		12日目	・担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育実習Ⅰ（施設）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	69
3	授業時数		90時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	実習
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　専門学校教員20年以上			
11	教科書		「新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第2版」			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ　②子どもや障害者への理解を深める。③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める				
14	科目の到達目標		・施設現場で療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体液にどのように繋がるのか理解することが出来る。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。			
15	科目の必須条件		・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や部分指導など施設実習に向けた準備をする。 ・各自実習のねらい、課題を明確にする。 ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする。 ①実習日誌・事後レポートなどの提出物50%　②実習施設の評価30%　③勤務状況等20%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	実習計画	1～3日目	施設の内容、機能などを理解する（1日の流れ、子どもや障碍者の活動など）			
		4～6日目	施設保育士の職務内容及び役割、また他の職員とのチームワークなどの理解			
		7～8日目	子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する			
		9日目～	日誌の書き方を学ぶ			
		12日目	・担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ （保育所）（スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	70
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	初瀬　基樹	9	授業形態	講義
		資格	保育士 幼稚園教諭1種免許状		所属	幼保連携型認定こども園 からたちこどもえん園長
		実務経験	社会福祉法人　恵満生福祉会　からたちこどもえん（旧　河内からたち保育園）で20年以上			
11	教科書		新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設など実習ガイド　第2版			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		保育実習の意義・目的・内容と言った保育実習の全体的な枠組みを解説します。具体的な内容を通して保育所実習についての授業を行います。実習前にすべき事柄、指導計画案の作り方・実習記録の作成及び、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な実例に基づきながら行っていく。			
14	科目の到達目標		保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 指導計画案の製作や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。 実習の総括と、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
15	科目の必須条件		手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備 保育所の社会的役割、種類、内容などについての事前学習。 各自設定した、保育所における実習目標、課題、学習計画に沿って実習に向けた準備 実習終了後の実習時後レポート作成と提出 授業中に提示する事前課題レポート（40%） まとめの事後課題レポート（40%） 授業への積極的参加と課題等提出　20%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 A：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） B：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） C：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） D：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①・②	保育実習の全体の流れと諸注意			
		③・④	保育所実習の意義・目的・内容について			
		⑤・⑥	保育所の1日の流れとデイリープログラムの理解			
		⑦・⑧	保育所実習の実習記録作成について（実習日誌の書き方）			
		⑨・⑩	保育所実習の指導案作成について（指導案の書き方）			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育実習事前事後指導 （施設）（スクーリング）
2	学科		児童福祉教育科	6	科目番号	71
3	授業時数		15時間	7	期	後期
4	開講学年		1年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	講義
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　専門学校教員20年以上			
11	教科書		新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設など実習ガイド　第2版			
12	関連資格・検定等		保育士・幼稚園教諭2種			
13	科目の概　要		保育実習（施設）の意義・目的・内容と言った保育実習の全体的な枠組みを解説します。具体的な内容を通して保育所実習についての授業を行います。実習前にすべき事柄、指導計画案の作り方・実習記録の作成及び、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な実例に基づきながら行っていきます。 レポートをまとめていく。			
14	科目の到達目標		保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 指導計画案の製作や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。 実習の総括と、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
15	科目の必須条件		手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備 保育所の社会的役割、種類、内容などについての事前学習。 各自設定した、保育所における実習目標、課題、学習計画に沿って実習に向けた準備 実習終了後の実習時後レポート作成と提出 授業中に提示する事前課題レポート（40%） まとめの事後課題レポート（40%） 授業への積極的参加と課題等提出　20%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義のスケジュール	①・②	施設実習に関する基礎的理解と諸注意			
		③・④	施設における保育内容と養護			
		⑤・⑥	施設の役割と機能について			
		⑦・⑧	施設実習の実習記録作成について（実習日誌の書き方）			
		⑨・⑩	施設実習の指導案作成について（指導案の書き方）			
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育実習Ⅱ.Ⅲ
2	学科		こども保育科	6	科目番号	72
3	授業時数		90時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	実習
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　専門学校教員20年以上			
11	教科書		「新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第2版」			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし。子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。 「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えなければならない。			
14	科目の到達目標		・「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことが出来る。			
15	科目の必須条件		・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や部分指導など施設実習に向けた準備をする。 ・各自実習のねらい、課題を明確にする。 ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする。 ①実習日誌・事後レポートなどの提出物50%　②実習施設の評価30%　③勤務状況等20%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) Ｂ:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) Ｃ:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) Ｄ:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	実習計画	①	1～2日目　子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う			
		②	3～4日目　その場の状況に応じた子どもへの対応と保育ついて理解する			
		③	5～6日目　問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する			
		④	7～8日目　延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解			
		⑤	9～10日目　保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解(部分実習、全日実習、査定実習)			
		⑥	11～12日目　保育士としての自己課題を明確化する			
		⑦	できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うように努めること			
		⑧				
		⑨				
		⑩				
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					

1	課程		社会福祉専門課程	5	科目名	保育実習事前事後指導Ⅱ.Ⅲ （スクーリング）
2	学科		こども保育科	6	科目番号	73
3	授業時数		15時間	7	期	前期
4	開講学年		2年	8	選択・必修	必修
10	担当教員	氏名	加藤　泰文	9	授業形態	講義
		資格	教員免許		所属	熊本YMCA学院
		実務経験	野外教育施設1年　高等学校寮監　3年　小学校　5年　専門学校教員20年以上			
11	教科書		新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド第2版			
12	関連資格・検定等		保育士資格・幼稚園教諭免許			
13	科目の概　要		・「保育実習（保育所）」での自己評価と課題・今後の学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、「保育実習Ⅱ」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。			
14	科目の到達目標		・「保育実習事前事後指導」「保育実習（保育所）」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 ・保育士として自己の課題を明確化する。			
15	科目の必須条件		・「保育実習（保育所）」の振り返りと、次回の実習に向けた自己課題を明確にしておく。 ・「保育実習（保育所）」の実習記録を準備しておく。 ・各自設定した「保育実習Ⅱ」に向けた自分の実習課題、課題、学習計画に沿って、準備する。 ・「保育実習Ⅱ」終了後の反省を踏まえて、実習事後報告レポートを作成し実習日誌に添付して提出する。 ①授業への積極的参加20%　②報告会の内容30% ③「保育実習Ⅱ」に向けた各自の実習目標、課題、学習計画50%			
16	成績評価および評価基準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は上記のように総合評価に基づいていることに注意すること。 Ａ：優秀な点数で科目に合格した。（100-80） Ｂ：申し分ない点数で科目に合格した。（79-70） Ｃ：かろうじて認められる点数で科目に合格した。（69-60） Ｄ：合格点数に到達せず、科目に不合格した。（59-0）			
17	講義の スケジュール	①	保育実習（保育所）の振り返り（報告会）			
		②	保育実習（保育所）の振り返り（報告会）			
		③	保育実習Ⅱの目的・意義について			
		④	保育実習Ⅱの目的・意義について			
		⑤	保護者・家庭への施設と地域社会への連携について			
		⑥	保護者・家庭への施設と地域社会への連携について			
		⑦	教材研究・指導計画作成			
		⑧	教材研究・指導計画作成			
		⑨	保育実習Ⅱに向けた、各自の実習目的、課題、学習計画の作成			
		⑩	保育実習Ⅱに向けた、各自の実習目的、課題、学習計画の作成			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参考書					